

科目名	憲法	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	上本 昌昭	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

なぜ保育士に憲法の知識が必要なのでしょう？
 保育士の仕事は、専門的な知識をもって、乳幼児を保育し、その保護者に対して保育に関する指導を行うこととされています（児童福祉法18条の4）。しかし、乳幼児ひとりひとりがおかれている状況は同じではありません。今日では、障害、虐待、貧困といった困難を抱える乳幼児や家庭も少なくありません。そこで、保育士には乳幼児を育むチームの一員として、保護者や他の関連職種と連携して仕事を行う能力が求められることになります。憲法は「国の基本構造」を定めるルールなので、その理解は、保育士が、保健医療、福祉、教育などの分野で、多職種連携の下、仕事を行う際の「共通の基盤」となります。憲法を学ぶことで、乳幼児を育むチームの一員として必要な「共通の基盤」を身につけてもらいたいと思います。

到達目標

憲法は「国の基本構造」を定めるルールなので、保育士として知っておくべき保健医療、福祉、教育などの「各種制度」、個人情報やプライバシーの保護といった「法的義務」は、すべて憲法に由来します。特に、憲法が保障する「人権」の理解は、乳幼児を育むチームの一員として仕事をする上で、最も重要な内容です。そこで、この授業を通じて、憲法で保障されている各種の人権の内容を正確に説明できるようになることが目標になります。また、人権が確実に保障されるために、国の仕組みも憲法によって定められています。したがって、人権を保障するための国の仕組みについても、合わせて理解することが必要です。最終的に、日頃の身近な諸問題について、憲法と関連づけて理解する態度を身につけてもらいたいと思います。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	ガイダンス／法とは何か？ 憲法を学ぶ理由／法と憲法との関係について理解する。
第2回	憲法とは何か？ 憲法が存在理由と「憲法」という言葉の意味、憲法の三大原則について理解する。
第3回	包括的基本権（レポート設題） プライバシー権や自己決定権といった「新しい人権」と個人情報の保護について理解する。
第4回	国会と内閣（レポート設題） 権力分立の原理、国会の地位、内閣の権能と議員内閣制について理解する。
第5回	裁判所／地方自治 裁判制度／地方自治体の仕事について理解する。
第6回	平和主義 憲法9条と日本の防衛政策の変遷について理解する。
第7回	日本国憲法の成立過程（科目試験） 日本国憲法を通じて日本の現代史を理解する。
第8回	天皇（科目試験） 天皇の位置づけとその活動、基本的人権の享有主体について理解する。
第9回	平等 「平等」の意味と合理的配慮とは何か理解する。
第10回	精神的自由① 信教の自由と児童虐待との関係について理解する。
第11回	精神的自由②（科目試験） 表現の自由、学問の自由とその教育的配慮について理解する。
第12回	経済的自由 職業選択の自由と保育士免許の関係について理解する。
第13回	身体的自由／その他 刑事手続きの仕組み／参政権／国務請求権について理解する。
第14回	社会権 生存権と福祉制度との関係、教育を受ける権利と教育機会の提供について理解する。
第15回	科目のまとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：配布資料に目を通して、講義内容を把握し、わからない漢字は調べておく。
 事後学習：各回で提示する課題を解き直してみる。

成績評価

レポートを提出の上、小テスト、科目試験にて評価する。
 小テスト10%、科目試験 90%

使用テキスト

『憲法』（豊岡短期大学）を使用する。毎回レジュメ・資料を配布する。

担当教員の実務経験

科目名	情報リテラシーと処理技術	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	田中 康裕	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。					
到達目標					
情報システムの発展と役割について理解を深め、これからの情報化社会を生きる上で必要となる基礎知識と技術を身に付けます。 《学習成果》 レポート：情報セキュリティについて理解し、適切な管理ができるようになる。 科目試験：「コンピュータの機能」「インターネット」「情報モラル」「情報セキュリティ」の概要について理解した上で、それらの知識を活用できるようになる。 スクーリング：ワープロ・表計算ソフトの基本操作／情報モラル・情報セキュリティの概要を理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	情報化社会				
第2回	コンピュータの発展				
第3回	ハードウェア				
第4回	ソフトウェア				
第5回	情報ネットワーク				
第6回	インターネット				
第7回	情報システムの課題				
第8回	Windwosの基本操作				
第9回	文書作成の基本①（基本操作・書式設定）				
第10回	文書作成の基本②（図形・表・ページ設定）				
第11回	表計算の基本①（基本操作・書式設定）				
第12回	表計算の基本②（計算式・関数・グラフ機能）				
第13回	情報モラル・情報セキュリティ				
第14回	教育現場におけるICTの活用と展望について				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
【事前学習】時間の目安：1時間程度 ・Windowsシステムツールの「エクスプローラー」の操作について習熟する。 ・Word、Excel、PowerPointのメニュー操作について習熟する。 【事後学習】時間の目安：1時間程度 ・日常生活の中で、情報モラル・セキュリティに意識を向け、積極的にICT機器を活用し、WordやExcelなどの操作方法を定着させる。					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「情報リテラシーと処理技術」（配本テキスト）					
担当教員の実務経験					

科目名	キャリアデザイン	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 朝香、山田 萌、桑山 史人	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
<p>この授業は、皆さん一人ひとりが保育者としてどのようなキャリア（職業人生）を歩みたいのか、卒業後の進路を共に考えるものです。具体的には、自分自身のことをよく知るための「自己理解」に焦点を当て、ワークを中心におこないます。</p> <p>また、「職業理解」を図るために、保育園や福祉施設で働く先輩保育者による講話をオムニバス形式で実施します。</p> <p>（なお、ゲストスピーカーの都合により講義回が前後することがあります）</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none">・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。・保育者として活躍できる場を理解し、将来の保育者像を様々な角度から考える。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	8/29 授業ガイダンス				
第2回	9/5 キャリアとは、キャリア形成の考え方				
第3回	9/12 理事長による講話				
第4回	9/26 学科長による講話				
第5回	10/3【職業理解】ゲストスピーカーによる講話（株式会社編）				
第6回	10/10【職業理解】ゲストスピーカーによる講話（社会福祉法人編）				
第7回	10/17【自己理解】キャリアを考える3つの視点				
第8回	10/24【自己理解】強みを考える				
第9回	10/31【自己理解】自己PRの作成				
第10回	11/7【職業理解】ゲストスピーカーによる講話（施設編）				
第11回	11/14【職業理解】ゲストスピーカーによる講話（卒業生編）				
第12回	11/21 ワールドカフェ				
第13回	11/28 自己PR発表1				
第14回	12/5 自己PR発表2				
第15回	科目のまとめ				
授業時間外の学習					
<ul style="list-style-type: none">・自身の興味・能力・価値観を認識し、これまでの経験を振り返ることで、「自己理解」を深める。・自身のことを他者に伝えることができる（自己PRができる）。・保育者として活躍できる場を理解し、将来の保育者像を様々な角度から考える。					
成績評価					
科目試験（筆記試験・持ち込み不可）：90%					
自己PR発表、毎回講義後の振り返りコメントの提出および内容：10%					
使用テキスト					
適時資料を配付。					
担当教員の実務経験					
高等学校にてキャリアカウンセラーとしての実務経験を有す。					

2024年度

科目名	英語コミュニケーション	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	朝倉 久実	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
今日では幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では、英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場に必要な英語表現を運用できる力を身に付けることを目標とする。					
到達目標					
・保育の様々な場面で使われる英語とその使い方を学習し理解する。 ・保護者との会話に使われる英語表現方法や、園のおたより・連絡事項の書き方を学ぶ。 ・子どもたちとの遊びやコミュニケーションに使われる英語表現を習得する。 ・実際の保育現場に取り入れる事を目標とした様々な英語を用いたアクティビティーの演習を通して実践力を身に付ける。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション / 英語の文法（１）（演習）（英文読解）				
第2回	英語の文法（２） / 入園準備に必要な英語の学習（演習）（英文読解）				
第3回	英語の文法（３） / 登園・降園に必要な英語の学習（演習）（英文読解）				
第4回	英語の基礎構文（１） / 室内遊びに必要な英語の学習（演習）（英文読解）				
第5回	英語の基礎構文（２） / 外遊び・けんかに必要な英語の学習（演習）（英文読解）				
第6回	英語の基礎構文（３） / 健康・病気・けがに必要な英語の学習（演習）（英文読解）				
第7回	運動・お散歩に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第8回	食事に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第9回	着替え・トイレに必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第10回	工作・お絵かきに必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第11回	乳児保育に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第12回	おたより・行事に必要な英語の学習（１）（英文法）（演習）（英文読解）				
第13回	おたより・行事に必要な英語の学習（２）（英文法）（演習）（英文読解）				
第14回	連絡帳に必要な英語の学習（英文法）（演習）（英文読解）				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：次回講義で行う小テスト範囲内容を把握しておく。 事後学習：講義内容を復習する。					
成績評価					
科目試験と小テストにて評価する。 科目試験：90% 小テスト：10%					
使用テキスト					
・毎回、レジュメ・資料を配布する。 ・『英語コミュニケーション』能勢規子著 豊岡短期大学					
担当教員の実務経験					
現役保育者向け保育英語講習会セミナー講師 ・こども英語インストラクター等の実務経験を有する。					

科 目 名	健康科学	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	水原 佐和子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	1単位
授 業 概 要					
・健康と運動について様々な視点から概観する ・発達の類型について理解する ・自身の生活に即した健康課題を考える （※下記授業計画は、状況に応じて変更する場合がある）					
到 達 目 標					
・発達や生活習慣病についての知識を持つ ・健康における運動の効果を知る ・健康に関わる知識を持ち、学習内容を身近に感じる					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	運動実技				
第3回	生活リズム				
第4回	現代社会における体育教育				
第5回	現代社会と健康				
第6回	運動発達の基礎①				
第7回	運動発達の基礎②				
第8回	運動実技 ※レポート提出日				
第9回	スキヤモンの発育曲線／ピアジェの発達段階理論				
第10回	トレーニングの原則／運動不足と関連する疾病				
第11回	有酸素運動の仕組み				
第12回	運動実技				
第13回	発達の類型とまとめ				
第14回	総括				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
基礎体力の維持向上を心がけましょう					
成 績 評 価					
科目試験(90%)及び小テスト(10%)による評価					
使 用 テ キ ス ト					
・豊岡短期大学『健康科学』					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

科目名	スポーツ（実技）	対象学科	こども保育学科Bコース		
担当教員	水原 佐和子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	実技	単位	1単位
授業概要					
運動実技の基礎を行う。保育者に必要となる基礎体力の維持増進や運動への親しみを持つことができるよう、実技を通して基礎的な運動を楽しむことを重視する。保育者養成のための運動科目であることに加え、本来健康にとって切り離すことのできない身体と運動との関わり実践的に触れていくことにより、自身の身体や健康へさらに目を向けるきっかけとして欲しい。					
到達目標					
・健康的な運動の実践に必要な基礎力を身につける ・実技を通じ、体力づくりや健康における運動の意味について学ぶ ・集団で運動を行うことの楽しみを味わい、皆で協力し、活動を行う					
※下記の授業内容は、進捗状況により変更が生じる場合や内容が前後することがある					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	ストレッチ、体操				
第3回	基本のステップ：マーチ、ギャロップ、様々な運動遊び				
第4回	基本のステップ：スキップ、様々な運動遊び				
第5回	基本のステップ：ツーステップ、様々な運動遊び				
第6回	運動遊び、表現遊び①やまごやいっけん 他				
第7回	運動遊び、表現遊び②あくしゅでこんにちは 他				
第8回	運動遊び、表現遊び③はとぼっぽ体操 他				
第9回	運動遊び、表現遊び④バスごっこ、エビカニクス 他				
第10回	運動遊び、表現遊び⑤サンサンたいそう				
第11回	運動遊び、表現遊び⑤サンサンたいそう				
第12回	運動遊び、表現遊び⑦まとめ				
第13回	様々な運動遊び、表現遊び				
第14回	総括				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
基礎体力の向上、怪我の予防、規則正しい生活を心がけましょう					
成績評価					
以下の点から評価をする ①科目試験 ※注意点 ・見学は事前申告を行うことにより可（※レポート提出有） ・肩にかかる髪は必ず結ぶこと ・運動着は指定のジャージ(下)を着用すること					
使用テキスト					
なし					
担当教員の実務経験					

科目名	保育原理	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	中村 リヨ	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
○保育の基本的な理念や意義について、テキストを中心に講義する。 ○保育の歴史、保育観、思想、制度を学ぶとともに、子どもの発達と保育計画、保育環境や保育方法について、演習及び具体的な事例を基に授業を進め、「保育原理」に関する理解を深めるとともに、保育者としての基礎を学ぶ。					
到達目標					
○保育の概念、保育の歴史、保育の制度を総合的視点でとらえるとともに、保育の方法、環境、計画等について、理論と実践の問題を具体的に考え、保育をする上で必要な基本的事項を学ぶ。 ○保育の意義や目的、子どもの発達の特性学び、そのよりよい育ちのための保育者の援助や役割を理解し深める。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	保育の意義, 保育の原理、				
第2回	保育の基本（目的と目標） 保育の基本（環境による保育）				
第3回	発達に応じた保育（発達の特性） 養護と教育の一体性				
第4回	養護とは・教育とは 保育の計画の必要性				
第5回	保育課程と教育課程 子どもの権利				
第6回	保育者の倫理観 保育の思想と歴史の変遷				
第7回	近代の保育思想 現代の保育思想 我が国における保育の歴史の変遷				
第8回	子どもの健康と安全 保護者に対する支援				
第9回	保育の質を高めるための方法 未来をつくり出す力の基礎を培う				
第10回	生活と遊びを通して総合的に行う保育 保育における個と集団への配慮				
第11回	保育の制度 保育所の役割				
第12回	幼稚園の役割 認定こども園				
第13回	家庭的保育事業 保育の現状と課題				
第14回	諸外国の保育の現状 保育者の専門性				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく 習・講義内容を復習する			事後学		
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「保育原理」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 「保育所保育指針解説」フレーベル館					
担当教員の実務経験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

科 目 名	教育原理	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	林 若子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	2単位
授 業 概 要					
<p>ヒトは、大変未熟で生まれてきます。それは、同時に大きな可塑性を持っているということでもあり、幼ければ幼いほど、教育の影響を大きく受けます。保育とは、養護と教育を一体的に行うものと言いますが、「養護」自体が「教育」そのものであって、ヒトが人間らしく生きていく土台になります。</p> <p>一方、社会にとっても教育は重要です。現在、世界の様々な課題を解決していくためにも教育のあり方が問われていると言っていいでしょう。</p> <p>この科目では、様々な方向から「教育」を捉え直し、考えます。</p>					
到 達 目 標					
<p>1, 「子どもの権利条約」に沿って、子どもの権利およびそれが侵害されている状況を理解する。</p> <p>2, 教育にかかわる過去の人々の思想を知り、自身の教育観をゆたかにする。</p> <p>3, 日本における教育の歴史を概観し、現代の位置を理解する。</p> <p>4, 日本の教育の制度・行政の基本を理解する。</p> <p>5, 現代の教育課題について考える。</p>					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	科目ガイダンス				
第2回	子どもの権利①				
第3回	子どもの権利②				
第4回	子どもの権利③				
第5回	教育の思想①				
第6回	教育の思想②				
第7回	教育の思想③				
第8回	今日における教育の課題①				
第9回	今日における教育の課題②				
第10回	今日における教育の課題③				
第11回	日本における教育の歴史				
第12回	教育の制度・行政①				
第13回	教育の制度・行政②				
第14回	科目のまとめ①				
第15回	科目のまとめ②				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
<p>教育にかかわる報道等に関心をもって、積極的にアクセスする。</p>					
成 績 評 価					
<p>筆記試験90%</p> <p>小テスト10%</p>					
使 用 テ キ ス ト					
<p>『教育原理』豊岡短期大学</p> <p>『最新保育小六法・資料集2024』ミネルヴァ書房</p>					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

科目名	こども家庭福祉	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	宮坂 幸香	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
将来、保育者として活躍する際に必要な現在の子どもが育つ社会環境の現状と課題について理解を深める。本講義では保育は子どもだけが対象ではなく、その保護者、家庭にも目を向ける必要があるという認識を持つこともねらいとしている。その上で子ども家庭福祉が誕生した背景や歴史から、現在の日本が抱える子育て世代の課題、家族構成の変化、多岐に渡る子育て支援について学習をし、広い知識を得る。福祉の側面だけではなく教育的視点を織り交ぜながら子どもに関わる福祉について講義を展開する。講義を聴くだけではなく自身の考えや意見をまとめ伝えることも授業の中に盛り込み、保育者として子どもとその家庭を支援する一人であるという意識変革をもたらす。					
到達目標					
こども家庭福祉の理念、歴史、こども家庭支援の現状と課題の理解、多岐に渡る支援の在り方、今後のこども家庭支援の展望について知識を深める。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス、こども家庭福祉について概要説明				
第2回	こども家庭福祉の理念と歴史				
第3回	現代社会の子どもと家庭に関する課題について				
第4回	子どもの権利、人権擁護				
第5回	こども家庭福祉の制度と実施体形				
第6回	こども家庭福祉の実施体系、専門職、専門機関及び行政、教育機関の役割				
第7回	こども家庭福祉の取り組み、展望				
第8回	母子保健と子どもの健全育成				
第9回	子育て支援の現状と課題①支援の多様性とは				
第10回	子育て支援の現状と課題②児童虐待				
第11回	子育て支援の現状と課題③社会的養護				
第12回	子育て支援の現状と課題④障がい児への支援				
第13回	子育て支援の現状と課題⑤非行、貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子ども				
第14回	こども家庭福祉の発展のために保育者として必要な知識、技能について				
第15回	まとめ	科目まとめ、講義の振り返り、試験の説明、			
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
成績評価					
科目試験100%、小テスト10%					
使用テキスト					
『こども家庭福祉』 豊岡短期大学					
担当教員の実務経験					
教育委員会にてスクールワーカーとしての実務経験を有す。					

2024年度

科目名	社会福祉論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	石川 琢馬	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
望ましい保育者となるために、現代社会における福祉課題を通して基本的知識やものの見方・考え方、人間観・倫理観について学ぶ。講義と同時に、グループワークでの学習を通して互いにコミュニケーション能力を磨くと同時に、自分たちで気づき、考えるプロセスを深めていく。 さまざまな事例を通して、正しく「考える」とはどのようなことか、一緒に確かめながら進めていく。					
到達目標					
1. 社会福祉の意義とその視点について理解する。 2. 社会福祉制度の仕組み（主体、対象、方法と課題）を理解する。 3. 社会福祉従事者の「専門性」、特に保育士に望まれる資質を養う。 特に、自分の言葉で曲がりなりにも他者に説明できることをめざす。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション「福祉」とコミュニケーション……「他己紹介」を通して「福祉社会」とは？ 「個人」の福祉、「社会」の福祉				
第2回	「当事者主体」とはどのようなことか？自分自身のこととして考え、どう関わるか？				
第3回	インクルージョンと社会福祉制度テキストを参考に、社会福祉の全体像を概観する。				
第4回	現代社会の福祉問題① ※例、公的扶助と子どもの貧困（グループ学習）				
第5回	現代社会の福祉問題② ※例、差別と偏見、ジェンダーについて（グループ学習）				
第6回	現代社会の福祉問題③ ※例、「虐待」「ひとり親家庭」（グループ学習）				
第7回	現代社会の福祉問題④ ※例、SDGs、福祉のベクトルについて（グループ学習）				
第8回	現代社会の福祉問題グループ発表、講評と補足				
第9回	現代社会の福祉問題グループ発表、講評と補足				
第10回	現代社会の福祉問題グループ発表、講評と補足				
第11回	「障害者福祉」……障害とはどのような現実か「障害」の分類、どんな福祉サービスがあるか				
第12回	「高齢者福祉」……どのようなことが問題となるか高齢化社会の現実的な問題を知る				
第13回	事例研究問題発見と問題解決、ソーシャルワークプロセスを理解する。				
第14回	事例研究支援の優先順位を考える、チームアプローチの実践を知る。				
第15回	科目まとめ対人支援職に求められる資質・能力について				
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
感受性・思考力を磨くことを意図として、一定の図書（絵本や詩を含む）を授業の中で紹介する。その中から任意のものを選び、そこから得たテーマについてレポートする。					
成績評価					
科目試験（90％）、小テスト（10％）の結果により判定し、評価する。					
使用テキスト					
「社会福祉論」（配本テキスト）					
担当教員の実務経験					
児童養護施設および児童相談所等において、相談支援業務の実務経験を有する。					

2024年度

科目名	こども家庭支援論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	山本 忠篤	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
現在では少子化により、子育て支援に力を入れている。本授業では保育士による子育て家庭支援に必要な知識として、幅広い知識と、専門性が求められている。そのために「家庭」という基礎的な部分を理解する必要がある。そのために家庭支援の意義や、目的・機能について学ぶと共に、現在の問題点、支援方法、今後についても学ぶ。					
尚、A組に関しては、基本的な能力が習得できるように実例を出しながら基礎的な能力を身に着けるよう授業を展開する。					
到達目標					
保育士の立場から、子育て支援を実施できるような実践力を身につけるために、方法・技術・保護者の支援ができるような基礎力と、現在の多様性の社会の中で、子どもにとっての利益を考え、行動できる力を身につける。 次の項目に関して理解できることを目標とする。子育て家庭に対して保育士の行う相談等の支援の意義や保育士等の役割について理解する。保育士による子ども家庭支援の基本について理解する。子育て家庭に対する支援の体制について理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解できるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	子ども家庭支援論オリエンテーション				
第2回	子ども家庭支援の目標と機能について理解する。				
第3回	子ども家庭支援における保育士等の役割について理解する。				
第4回	子ども家庭支援における保育士等の役割について理解する。				
第5回	保育の特性と保育士の専門性を生かした子ども家庭支援について理解する。				
第6回	保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。				
第7回	家庭の状況に応じた支援について理解する。				
第8回	地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力について理解する。				
第9回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について理解する。				
第10回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について理解する。				
第11回	子ども家庭支援の内容と対象について理解する。				
第12回	保育所等利用児童の家庭への支援について理解する。				
第13回	地域の子育て家庭への支援について理解する。				
第14回	要保護児童等及びその家庭に対する支援と子ども家庭支援に関する現状と課題を理解する。				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
関連する施設の役割について、事前に調べておくこと。 他の科目との関連性も重要になるので、今まで学んだ福祉系の科目を振り返ること。 近くにある子育て支援に関する施設に興味を持つこと。 身近な施設を訪問し見学させていただく。					
成績評価					
科目試験及び小テストにて評価をする。 ・科目試験 90％ ・小テスト 10％					
使用テキスト					
新基本保育シリーズ5「子ども家庭支援論」(中央法規出版)					
担当教員の実務経験					
福祉専門職として、子育て支援、知的障がい者生活支援の実務経験を有する。					

科目名	社会的養護Ⅰ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	山内 陽子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
社会的養護の意義・理念、歴史的変遷について理解する。社会的養護の制度と実施体系について学び、社会的養護の対象となる要保護児童の理解、現場である児童養護施設をはじめとした施設養護や里親を代表とした家庭養護などの実践について理解を深める。また、担い手である専門職の役割について学習する。現在の子どもを取り巻く生活環境の実態、課題等について理解を深める。					
到達目標					
社会的養護の制度、施設の概要、施設の現状と課題、保育者の役割について理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	講義の進め方、講義を行う上での確認				
第2回	社会的養護について理解をする				
第3回	社会的養護の歴史的変遷について学ぶ				
第4回	子ども家庭福祉における社会的養護の意義について学ぶ				
第5回	社会的養護の制度、仕組みについて児童相談所を中心に理解する				
第6回	児童養護施設、乳児院について施設の役割を中心に理解する				
第7回	施設養護を実施する上で必要な基本原理について学ぶ				
第8回	具体的な施設養護の実践、主に日常生活支援について学ぶ				
第9回	養子縁組制度について学ぶ				
第10回	里親制度について学ぶ				
第11回	子どもの権利擁護、保育者としての倫理について学ぶ				
第12回	施設内虐待防止を中心に被措置児童等への虐待防止の取り組みについて学ぶ				
第13回	社会的養護の現場で働く保育者やその他専門職の役割について学ぶ				
第14回	社会的養護の課題について学ぶ				
第15回	科目まとめ社会的養護Ⅰでの学びの振り返りと学習成果の確認				
授業時間外の学習					
事前学習：教科書に目を通しておく、関連するニュース等意識して見るようにする。 事後学習：講義の振り返りをする。					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
社会的養護Ⅰ 豊岡短期大学					
担当教員の実務経験					
児童養護施設で児童指導員として実務を経験を有している。					

科 目 名	教職論（保育者論）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	伊藤 萌	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	2単位
授 業 概 要					
専門職としての教職（保育）者の役割や倫理について学ぶとともに、その専門性について考察をします。また、教職（保育）者の制度的位置づけと職務を確認するとともに、他機関や他の専門職との連携や協働について学び、教職（保育）者の専門性に対する理解を深めます。					

科目名	発達心理学	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 朝香	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
発達とは、一般的に誕生してから死に至るまでの心身の変化の過程と定義されている。この授業では、発達心理学における基本的な知識の修得に加え、実際保育の現場に出た際に、知識を活かし子どもや保護者への支援に活かすことを目的とする。またこの授業を通して、個々の発達の多様性への理解や発達を時間的な連続過程として理解し深めてもらいたい。加えて、各発達段階における心理発達の課題や、それに対して必要とされる支援についても取り上げていく。					
到達目標					
本授業の到達目標は、1. 発達心理学の基本的な知識を修得し、2. その知識を現場で応用させることができることである。発達心理学の理論や概念、実験方法、考え方などについて理解し、知識を身につける。また、修得した知識を実際の現場にいかに応用していくか、実践していくことができるかを学生自身が考え、まとめていくことを目標としている。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス：授業の内容と進め方の説明、発達心理学とは				
第2回	発達心理学とは：理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（フロイト）				
第3回	発達心理学とは：理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（ピアジェ）				
第4回	発達心理学とは：理論的な理解を通して発達心理学の全体像をとらえる（エリクソンその他）				
第5回	発達段階ごとの特徴とその理解：胎児期・新生児期				
第6回	発達段階ごとの特徴とその理解：乳児期				
第7回	発達段階ごとの特徴とその理解：乳児期前期				
第8回	発達段階ごとの特徴とその理解：乳児期後期				
第9回	発達段階ごとの特徴とその理解：乳児期（愛着形成）				
第10回	発達段階ごとの特徴とその理解：児童期				
第11回	発達段階ごとの特徴とその理解：青年期				
第12回	発達段階ごとの特徴とその理解：成人期前期				
第13回	発達段階ごとの特徴とその理解：成人期後期				
第14回	発達に伴う問題の理解と実践：発達を援助する				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：次回の授業に関する資料を精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。					
成績評価					
科目試験 90%、小テスト 10%で評価する。					
使用テキスト					
『よくわかる発達心理学』無藤 隆（編）を基にしながらパワーポイントを使用し進行する（パワーポイント資料は学生に配布する）。なお、教科書としての指定はないため、必要な資料等については適宜授業中に提示する。					
担当教員の実務経験					
大学、高等学校にてスクールカウンセラーとしての実務経験を有す。					

科目名	こどもの発達と家庭支援	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 朝香	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
この授業では、こどもの発達およびそれに応じた家庭支援に関する基本的な知識の修得と現場への応用を念頭に、講義形式を基盤にしつつ、グループワーク（こどもの発達と家庭支援に関する様々な課題について調べて発表する）も実施する。また、家族についての詳しい解説も行っていく。毎回リアクションペーパーの記入を通して、自分自身への気づきにもつなげてもらいたい。					
到達目標					
「こどもの発達と家庭支援」の理論や知識、考え方についてを理解し、知識を身につけることと、知識を実際の現場にいかに応用していくか、実践していくことができるかを学生自身が考え、まとめていくことを目標にしている。特に現代社会の中で家族は大きく変化している。家族についても理解を深めたうえで、自分は支援者として「こどもの発達と家庭支援」をどのように感じたのか、どのような支援者像を持っているかといった自己理解を促すこともねらいとしている。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス：授業の進め方と内容を解説、こどもの発達と家庭支援とは				
第2回	こどもの家庭支援の意義と役割				
第3回	家族とは何かを考える				
第4回	現代社会における家族の変化（機能や形態）				
第5回	現代社会における家族の変化（近代家族）				
第6回	家族をシステムとしてとらえる（家族療法）				
第7回	家族を取り巻く社会の変化				
第8回	保護者との信頼関係を築くかわり方				
第9回	こども家庭支援の内容と対象				
第10回	保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
第11回	地域の子育て家庭への支援				
第12回	要保護児童およびその家庭に対する支援				
第13回	保育士の行う子育て支援の展開				
第14回	保育士の行う子育て思念の実際・総論				
第15回	科目のまとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：次回の授業に関する資料等を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。					
成績評価					
科目試験 90%、小テスト 10%で評価する。					
使用テキスト					
授業全体は様々な参考文献をもとに作成したパワーポイントを使用し進めていく（パワーポイント資料は学生に配布する）。教科書の指定はないため、必要な資料等は適宜配布または提示をする。					
担当教員の実務経験					
大学、高等学校にてスクールカウンセラーとしての実務経験を有す。					

2024年度

科目名	教育課程論（保育の計画と評価）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	伊藤 萌	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
保育の実践を俯瞰しながら、保育・教育の意味と意義について問い直す授業です。また、現在の保育・教育をめぐる課題も踏まえ、子どもの姿と保育の目的を適切に捉えた豊かな保育カリキュラムを自分たちで設計できるように、保育の計画と評価について学びます。					
到達目標					
①教育課程・保育課程とは何かを理解する。 ②世界の様々な保育思想にも目を向けながら、日本の保育・教育観の変遷の歴史を辿り、自分自身の保育観を深める。 ③保育・教育をめぐる現代の様々な課題を見つめ、これからの時代に求められる保育・教育について考える。 ④保育計画の作成手順を理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション～「教育課程論」とは何を学ぶのか～				
第2回	幼児教育・保育とカリキュラム				
第3回	世界の様々な幼児教育思想				
第4回	日本における保育カリキュラムの歴史の変遷				
第5回	教育課程・全体的な計画に関わる法規の理解				
第6回	教育課程の編成と全体的な計画の作成				
第7回	指導計画の作成①				
第8回	指導計画の作成②				
第9回	幼児教育・保育の質向上とカリキュラム・マネジメント				
第10回	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続				
第11回	子どもの健康及び安全に配慮した教育・保育カリキュラム				
第12回	特別な配慮を必要とする子どもへの指導計画				
第13回	家庭・地域との連携と地域子育て支援				
第14回	授業の振り返り				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：テキストに目を通す 事後学習：授業内で扱った内容やキーワードとなる部分をまとめる					
成績評価					
①科目試験 90% ②小テスト 10%					
使用テキスト					
『教育課程論』 豊岡短期大学					
担当教員の実務経験					
私立幼稚園にて幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

科目名	保育内容総論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	中村 リヨ	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
保育内容総論では、領域別の授業で学ぶ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な事例をもとに解説する。					
到達目標					
保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結び付けながら学ぶことを目的とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	保育の全体的構造 ①保育内容総論を考える。 領域の考え方と乳児保育の領域。				
第2回	保育の全体的構造 ②育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿				
第3回	保育内容の歴史の変遷 ①変遷にみる特徴				
第4回	保育内容の歴史の変遷 ②変遷にみる課題				
第5回	養護と教育の一体的展開 ・養護的ななかかわりと教育的なかかわり				
第6回	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方				
第7回	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ②保幼小の円滑な連携				
第8回	生きる力の基礎をはぐむ保育内容の展開 ①環境を通して行う保育				
第9回	生きる力の基礎をはぐむ保育内容の展開 ②遊びによる総合的な保育				
第10回	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ①全体的な計画の作成				
第11回	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ②指導計画の作成手順と配慮				
第12回	保育の評価と保育の記録 ①幼児理解に基づく評価				
第13回	保育の評価と保育の記録 ②観察記録を書く意味と幼児理解				
第14回	保育内容の現代的課題について ・子育て支援、・多文化共生保育				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習・テキスト「保育内容総論」（豊岡短期大学）を熟読する。					
事後学習・講義内容を復習する。					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「保育内容総論」テキスト（豊岡短期大学） 参考資料は授業時に 配付 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）					
担当教員の実務経験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

科目名	保育内容（人間関係Ⅰ）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	亀田 佐知子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
<p>この科目では、乳幼児期における幼稚園、保育所および認定こども園における子どもの発達について、人間関係という視点から考えていく。また、その発達を保育者はどのように考えて子どもたちを支えていったらよいかについて事例を通して検討し、理解を深める。</p> <p>すなわち、一人一人の育ちを大切にしながら集団での育ちを考えていくことの難しさや面白さなどをVTR教材などを使用し、グループワークで理解を深めていく。</p>					
到達目標					
<p>1．領域「人間関係」を理解し、人間関係の成長を大切にした保育について考えることができる。</p> <p>2．乳児期から幼児期までの人間関係の発達を学び、発達の概要をイメージできる。</p> <p>3．集団化のプロセスを理解し、個と集団の育ちについて考えることができる。</p> <p>4．実際の子どもの園生活における人間関係の発達を促す支援について考えることができる。</p>					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	幼児教育の考え方と領域「人間関係」（１）幼児教育の基本、幼児教育において育みたい資質・能力等				
第2回	幼児教育の考え方と領域「人間関係」（２）領域「人間関係」とは				
第3回	保育者の役割と領域「人間関係」（１）乳幼児期の人とかかわる力の育ち				
第4回	保育者の役割と領域「人間関係」（２）乳幼児の人とかかわる力を育む保育者の役割				
第5回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（１）乳児期から幼児前期				
第6回	乳幼児期の発達と領域「人間関係」（２）幼児後期				
第7回	個と集団の育ち（１）集団化のプロセス				
第8回	個と集団の育ち（２）集団の中で育まれる「協同性」と個への保育者の援助				
第9回	こどもの言葉と人間関係				
第10回	子どもの遊びと人間関係				
第11回	子どもの生活と人間関係				
第12回	子どもの活動と人間関係				
第13回	小学校との連携・接続、小一プロブレム				
第14回	子どもを取り巻く環境と人間関係ー地域、保護者、保育者同士				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
<p>事前学習：教科書の該当箇所を読み、講義内容の大まかな内容を把握する。</p> <p>事後学習：授業内容をまとめ、課題に取り組む。</p>					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「新版実践から学ぶ子どもと人間関係」五十嵐淳子他著 大学図書出版					
担当教員の実務経験					

科 目 名	保育内容（言葉）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	炭 美智子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
本講義では、乳幼児の発達と言葉について学び理解を深める。 保育所保育指針の領域「言葉」のねらい及び内容をもとに、幼児の言葉の特徴や発達についても理解を深める。 「ことば」の発達における集団生活の意義や保育者の役割について学ぶ。					
到 達 目 標					
①言葉が人間生活の中で果たす役割や機能について学び、乳幼児期の言葉の発達と環境について理解を深める。 ②領域「言葉」のねらいと内容について理解を深める。 ③子どもの言葉をより豊かにするための「児童文化財」を通しての援助と関わりを学び、具体的な活動 必要な教材や指導技術 などについて理解を深める。指導法について演習し、実践的な指導力を身につけていく。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス				
第2回	保育の基本と領域「言葉」				
第3回	乳幼児期の発達と言葉				
第4回	人の生活と言葉・幼児の言葉の特色				
第5回	乳幼児期の言葉の発達と環境				
第6回	子どもの発達と言葉の発達				
第7回	領域「言葉」のねらいと内容・保育所保育指針				
第8回	保育活動と「言葉」				
第9回	児童文化財を通しての援助とかかわり①（お話・絵本・紙芝居）				
第10回	児童文化財を通しての援助とかかわり②（パネルシアター・ペープサート・玩具）				
第11回	児童文化財の作成①				
第12回	児童文化財の作成②				
第13回	演習				
第14回	演習と振り返り				
第15回	本科目のまとめ・振り返り				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：教科書、配信データ等により講義内容を把握する。 後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。 その他：調べ学習等					
成 績 評 価					
総合評価 ・科目まとめ：90 ・小テスト：10					
使 用 テ キ ス ト					
配信データ資料等 「幼稚園教育要領」（最新版）：チャイルド社 「保育所保育指針解説」（最新版） チャイルド社：発行					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
社会福祉法人保育園において保育士・園長として17年間の実務経験を有する。					

科 目 名	保育の表現技術（身体）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	水原 佐和子	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
本授業では、授業前半は実習に向けた学生自身による運動遊び、導入等の模擬発表を行う。実習後はテーマ別に運動遊びを取り上げ、発達段階に基づいた遊び方や指導法などを検討していく。後半は身体表現やダンスの実技を行う。					

科 目 名	保育の表現技術（造形）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	瀧 将仁	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について学習する。					
【重要】造形活動が好きの方も嫌いな方も得意な方も苦手な方も造形の課題は息抜きのつもりで楽しく取り組んでください。そもそも幼児教育における造形は手指の巧緻性や表現力や感性を養うものです、絵が上手い下手ということは重要ではなく、自分が感じたり、考えたりしたことを少しでも表現できればそれが最も大事なことです。また、ご家庭や周りにこどもがいる方は授業で習得したことを生かして一緒に制作することも良い経験になると思います。ぜひ、楽しみながら取り組んでください。					
到 達 目 標					
保育者に必要な基礎的な造形知識・技術を習得する。平面造形の原理（形態・色彩・テクスチャー・構成の原理・配色と調和）、平面造形の材料と用具（描画材料）、表現手法（各種の表現手法について）について学習し、保育現場で実践・応用できる力を身に付ける。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	造形の基礎知識① 保育者に必要な道具の説明「お道具箱セットを考えよう」				
第2回	造形の基礎知識② 造形体験を振り返ってみよう				
第3回	造形の基礎知識③ 幼児向けの折り紙を作ろう				
第4回	造形の基礎知識④ はさみの使い方、室内装飾を作ってみよう				
第5回	造形の基礎知識⑤ 水彩絵具を使用した色彩理論（色の三原色、色の三属性）				
第6回	造形の基礎知識⑥ 水彩の技法（ドリッピング、吹き流し）				
第7回	造形の基礎知識⑦ 水彩の技法（デカルコマニー）				
第8回	造形の基礎知識⑧ 水彩で抽象画を描こう（テーマ：春夏秋冬）				
第9回	造形の基礎知識⑨ 色彩構成（折り紙を使った色彩構成）				
第10回	造形の基礎知識⑩ 作品講評会をしてみよう				
第11回	造形の基礎知識⑪ 素材研究① フェルトペンで描こう				
第12回	造形の基礎知識⑫ 素材研究② クレヨンで描こう				
第13回	造形の基礎知識⑬ 素材研究③ スクラッチの技法、その他				
第14回	造形の基礎知識⑭ 素材研究③ 色鉛筆で描こう				
第15回	科目まとめ「造形体験で学んだことについての考察」論述				
授 業 時 間 外 の 学 習					
映画や映像作品、漫画やアニメーションや書籍など多様で良質なメディアに触れること。アートやデザインなど多様なビジュアル表現に触れてください。また、そういった表現がどのように幼児教育と結びつくか、どういった課題があるか少しでも考えてみてください。世の中には優れた表現やそうでない表現が溢れています。保育者になる皆さんがそういった情報を取捨選択し、良質な表現や情報を幼児造形教育に生かしてください。					
成 績 評 価					
期末試験90%、小テスト10%					
使 用 テ キ ス ト					
教科書（Aコースのみ）、配布資料					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
幼稚園等において美術、造形指導の実務経験を有する。					

科目名	保育の表現技術（ピアノ）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	水野 沙織、間 正子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
<p>子どもたちは毎日の生活を歌とともに過ごしていきます。</p> <p>この授業では、季節の歌・生活の歌のピアノ伴奏・弾き歌いをするための基礎を作っていきます。</p> <p>そのために音楽での「あいうえお」や文法にあたる「楽典」を繰り返し学び、様々な曲に対応できるよう楽譜に慣れるようにします。</p> <p>演奏に関しては技術的な派手さにとらわれ過ぎず、初心者も経験者も丁寧に美しい音色を目指していきます。</p> <p>人前での演奏は大変緊張しますが、クラスメイト同士、お互いを応援しあえる環境を作ること、演奏する楽しさ、ともに成長していく喜びを体験していきます。</p>					
到達目標					
<p>楽譜とピアノの楽器に慣れ、春と夏の童謡を中心に丁寧に美しい音色を意識した両手演奏が出来るようにする。</p> <p>クラスメイトの前で演奏を披露することで、人前で演奏することに慣れると同時に、お互いの演奏を聞きあいながら成長していく環境を築く。</p>					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション、ピアノ室の使い方、ト音記号、チューリップ（右）				
第2回	楽譜の書き方、ヘ音記号、チューリップ（左手）				
第3回	チューリップ（両手）、Lv.2&Lv.3の提示、楽典				
第4回	小テスト：チューリップ、ちょうちょう①、楽典				
第5回	ちょうちょう②、楽典、かたつむり①				
第6回	小テスト：ちょうちょう、かたつむり② 楽典				
第7回	小テスト：かたつむり、うみ①、楽典				
第8回	うみ②、楽典、さんぼ①				
第9回	小テスト：うみ、楽典、さんぼ②				
第10回	さんぼ③、楽典				
第11回	ミニ発表会リハーサル				
第12回	ミニ発表会				
第13回	試験準備（復習）会場リハーサル				
第14回	楽典試験、実技試験準備（復習）				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
<p>学校や自宅で練習をして演奏技術の向上に努めて下さい。</p> <p>また、楽典も繰り返しテストをしますので、復習して覚えていくようにしてください。</p>					
成績評価					
<p>小テスト10%</p> <p>学期末テスト90%（楽典＋実技）</p>					
使用テキスト					
母とおさなごのうた					
担当教員の実務経験					

科 目 名	表現とこどもの運動	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	水原 佐和子	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
子どもの運動や身体表現の意味について、テキストを中心に学ぶ。 ・身体表現運動とは ・身体表現運動の指導、留意点、環境、安全面の指導 等 ※授業の内容は進捗状況により変更することがある					
到 達 目 標					
・上記の内容について理解する ・指定設題によるレポートを作成する ・幼児と行うことができる運動や身体表現への理解を深める					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	運動実技（予定）				
第3回	表現とは何か（テキスト）				
第4回	表現における感性のはたらき（テキスト）				
第5回	運動と人格的発達（テキスト）				
第6回	運動実技（予定）				
第7回	人的環境としての援助の工夫（運動遊び）				
第8回	人的環境としての援助の工夫（身体表現）				
第9回	運動実技（予定）				
第10回	発育発達の一般原則				
第11回	遊具・身近な素材を使った運動遊び（テキスト）				
第12回	運動遊び場面における安全指導と安全管理				
第13回	運動能力と調整力				
第14回	総括				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
適度な運動習慣を持つこと					
成 績 評 価					
小テスト（10%）、科目試験（90%）					
使 用 テ キ ス ト					
豊岡短期大学『表現とこどもの運動』					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

科目名	乳幼児保育Ⅰ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	炭 美智子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
人間の子どもは、無防備・未熟な状態で生まれ、社会的・文化の中で「人間」らしい能力を獲得しながら発達を遂げる。子どもの成長に直接関わる大人達は、乳幼児期の発達の特性を理解しながら、時代や社会の変化に応じた環境を整えることが望まれる。 本講義では、3歳未満児の発達と保育の方法を学び、乳幼児の生活や遊び等について望ましい方法や、保育者の役割を考える。さらに、ケーススタディを通して、様々な現場で実際に活用できる具体的な方法を習得する。					
到達目標					
①乳幼児保育の基本を学び、その重要性を確認する。 ②乳幼児保育に関する日本の歴史的変遷、現代の乳幼児保育の社会的役割を理解する。 ③3歳未満児の発達の基礎知識を身につけるとともに、その特徴を理解し、発達に沿った望ましい生活を整えることができる。 ④乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ⑤保育者としての適切な関わり方や態度を身につけながら、その保育技術を実際の保育現場で生かすことができる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業全体ガイダンス / 乳幼児保育の重要性と日本の乳幼児保育の意義と概念				
第2回	乳幼児保育に関する日本の社会の歴史的変遷、現代乳幼児保育の社会的役割				
第3回	乳幼児保育における養護及び教育				
第4回	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題				
第5回	保育所における乳幼児保育と保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育、家庭的保育				
第6回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と支援の場				
第7回	3歳未満児の生活と環境				
第8回	3歳未満児の生活と環境				
第9回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育				
第10回	3歳未満時の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり				
第11回	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮				
第12回	乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義				
第13回	職員間の連携と協働・保護者との連携と協働				
第14回	自治体や地域の関係機関との連携と協働				
第15回	本科目のまとめ・振り返り				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：教科書、配信データ等により事前予習を行う。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する 他：調べ学習等					
成績評価					
総合評価 ・科目まとめ：90 ・小テスト：10					
使用テキスト					
「乳幼児保育Ⅰ」：豊岡短期大学 「保育所保育指針解説」：フレーベル館					
担当教員の実務経験					
社会福祉法人保育園において保育士・園長として17年間の実務経験を有する。					

科目名	社会的養護Ⅱ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	山内 陽子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
子どもは一般的に生まれた家庭で成長する。しかし、その家庭がない子ども、子どもの成長に不適切な環境である場合、国、および地方公共団体が、その家庭や子どもに対し支援を行うことを「社会的養護」と言う。近年、社会的養護のもとで生活する子どもの多くが虐待等の不適切な養育経験をしており、その対応には、高い専門性が求められるようになってきている。本講義では、前期の社会的養護Ⅰを踏まえて、社会的養護の現場に必要な知識や技術について演習を通して学んでいく。					
到達目標					
社会的養護Ⅰでの学びを踏まえて、施設における現状や実践、求められる専門性について理解を深める。事例検討を通じ、実践に必要な知識や技能を習得することを目標とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	講義の進め方、社会的養護Ⅰの振り返り				
第2回	演習1 アドミッションケアについての事例検討				
第3回	演習2 インケア 日常生活支援に関する事例検討				
第4回	演習3 被虐待児へのケア 虐待を受けた子どもの理解、支援に関する事例検討				
第5回	演習4 親子関係調整 親子関係再構築に関する事例検討				
第6回	演習5 家族関係が難しい被虐待児の事例検討				
第7回	演習6 リービングケア 自立支援に関する事例検討				
第8回	演習7 アフターケア 施設退所後の自立支援等に関する事例検討				
第9回	演習8 バーンアウトに関する事例検討				
第10回	演習9 DVのケース 母子生活支援施設での母子支援に関する事例検討				
第11回	演習10 施設内虐待に関する事例検討				
第12回	演習11重症心身障がい児へのケア 医療型障害児入所施設での子ども支援に関する事例検討				
第13回	演習12教育現場との連携 教育現場と児童養護施設との連携に関する事例検討				
第14回	自立支援計画の作成について学ぶ				
第15回	科目のまとめ 社会的養護Ⅱでの学びの振り返りと学習成果の確認				
授業時間外の学習					
事前学習：教科書に目を通しておく、関連するニュース等意識して見るようにする。 事後学習：講義の振り返りをする。					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
児童の福祉を支える社会的養護Ⅱ 萌文書林					
担当教員の実務経験					
児童養護施設で児童指導員として実務を経験を有している。					

2024年度

科 目 名	保育実習Ⅰ	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	倉島 多摩代、米田 朝香、間 正子、水原 佐和子、水野 沙織、伊藤 萌	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	実習	単 位	4単位

授業概要

保育所や施設における実習（各11日間/90時間以上）
実際の現場で、生活や遊び、活動を見学観察し、参加し関わります。乳幼児や利用者への理解を深めるとともに、保育所や施設の機能と保育士の職務について学びます。

到達目標

- ① 保育所・児童福祉施設等の役割や機能についての知識を得る
- ② 保育・生活観察や子ども及び利用者との関わりを通して、実際に学ぶ
- ③ 保育所や施設の保育・活動計画の立案や観察、記録自己評価を通して、保育士としての基本的技術を習得する
- ④ 保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

実習前には「実習のオリエンテーション」に出席する
実習日誌の準備をする
子どもの発達段階について振り返り、理解を深める
手遊びや絵本、季節の歌など、現場で子どもや利用者と関わる際の引き出しを増やしておく

成績評価

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園の責任者（園長）より実習の評価がされる
実習園の評価と当校の実習担当教員の評価も併せて総合的に評価される

※備考
実習を履修するにあたり「実習に行くための基準」を満たしていること
実習中に教員が実習指導巡回するので、その指導に従うこと
実習報告会に参加しなければならない

使用テキスト

『保育・教育実習』 ミネルヴァ書房
『学びつづける保育者をめざす 実習の本』 萌文書林
『保育所保育指針』 チャイルド本社

担当教員の実務経験

科目名	保育実習指導Ⅰ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代、伊藤 萌	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
本授業では、保育者としての知識やマナーの基本を学びます。また、保育園や各児童福祉施設等についても理解を深め、実習を円滑に進めていくための知識や技能の習得を目指します。さらに、実際の保育現場にも出向き、実習日誌や指導案を作成するにあたって大切な視点についても考えを深めます。					
到達目標					
①保育実習Ⅰの意義・目的を確認し学びを深める。 ②保育所実習や施設実習に向けて、自らの課題を明確にする。 ③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする。 ④実習の計画・実践・省察・記録の方法や内容について具体的に理解し、実際に作成する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス/なぜ保育実習をするのか				
第2回	基本的な実習のマナーを知ろう				
第3回	保育実習Ⅰにおける実習の内容と目的				
第4回	保育者になるための基礎知識				
第5回	保育実習Ⅰにおける実習の内容と課題の明確化				
第6回	保育所実習における実習の課題と計画				
第7回	実習日誌の取り扱いと記録の方法				
第8回	実際に保育の現場を見学しよう（8回目もしくは9回目に実施）				
第9回	保育園を見学して気づきや学びを共有しよう				
第10回	実習日誌の書き方①				
第11回	実習日誌の書き方②				
第12回	部分指導案について学ぶ				
第13回	実習の手引きより学ぶ①				
第14回	実習の手引きより学ぶ②				
第15回	科目まとめ 振り返り				
授業時間外の学習					
事前学習：テキスト等により授業内容を理解する 事後学習：授業内容を振り返り、内容を理解する					
成績評価					
科目試験にて評価する。 科目試験 90％ 小テスト 10％					
使用テキスト					
『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『保育所保育指針』 チャイルド本社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社 『学びにつける保育者をめざす実習の本』 萌文書林 実習日誌					
担当教員の実務経験					
倉島：社会福祉法人、公立、株式会社の保育園において保育士・園長としての実務経験を有する。 伊藤：私立幼稚園において幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

科目名	教育心理学	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	弓田 千春	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
教育心理学における、発達理論、学習理論、人格（パーソナリティ）理論、教育評価、教育方法といった主な領域についての基礎的な知識と理解を深める。さらに、学校教育だけでなく、家庭やグループ内での学習と教育にも十分注目し、人と人との関係とその影響を考えながら講義を進める。					
到達目標					
教育活動に必須である、子どもの発達と学習、パーソナリティへの理解、教育評価に対する知識と理解を深め、心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス・心理学とは何か？				
第2回	心理学とパーソナリティ①フロイトと意識と無意識				
第3回	心理学とパーソナリティ②ユングやその他の理論				
第4回	心理学とパーソナリティ③まとめ、類型論と特性論の考え方				
第5回	学習理論①発達と学習				
第6回	学習理論②学習とは何か？～古典的条件付けと道具的条件付け				
第7回	学習理論③動機づけとは何か？～内的動機づけと外的動機づけ				
第8回	学習理論③認知とは何か？～知覚、認知、記憶				
第9回	学習指導形態、教育評価について				
第10回	こどもの発達と発達の視点				
第11回	発達上起こりうる問題たち				
第12回	パーソナリティの測定と評価				
第13回	心理検査への考え方				
第14回	カウンセリングマインドとは何か？				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
授業時間外の学習：事前準備としては、配布資料や教科書、参考書籍などをよく読んでおく。授業後は振り返りのノート作成などで授業で学習した内容を復習すること。					
成績評価					
定期試験得点（9割）＋小テスト（1割）にて成績評価とする。					
使用テキスト					
学校指定の教科書を使用する。 その他参考書籍については授業内で紹介する。					
担当教員の実務経験					
高等学校、大学、民間センターにおいて臨床心理士としての実務経験を有する。					

科 目 名	言葉とこどもの文化	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	倉島 多摩代	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	1単位
授 業 概 要					
本科目では、幼児期の言葉の特徴について理解し、絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究を通して、その利用の仕方について理解する。					
到 達 目 標					
幼児期の言葉の特徴について理解し、保育所保育指針や幼稚園教育要領が求める領域「言葉」を踏まえた上で、児童文化財が子どもの言葉の習得にどのように役立つのかを理解し、保育の現場で使用される絵本、紙芝居、おはなし、ペープサート、シアター等の児童文化財を利用しての言葉の理解を目的とする。また、児童文化財を具体的に活用できるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス / 児童文化財について				
第2回	言葉の機能と言葉の発達				
第3回	領域（言葉）のねらい及び内容				
第4回	ことばを育てる児童文化財① ・絵本、紙芝居について				
第5回	ことばを育てる児童文化財② ・おはなし、ペープサートについて				
第6回	ことばを育てる児童文化財③ ・シアター（パネルシアター、エプロンシアターなど）について				
第7回	ことばを育てる児童文化財④ ・わらべうたあそび、ことばあそび				
第8回	ことばを育む教材				
第9回	ことばを育む教材				
第10回	ことばを育てる児童文化財の研究				
第11回	ことばを育てる児童文化財の研究				
第12回	ことばを育てる児童文化財の研究				
第13回	ことばを育てる児童文化財の研究				
第14回	ことばを育む児童文化財について				
第15回	科目まとめ				
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：教科書、配布資料などにより、講義内容を理解する。					
事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。					
成 績 評 価					
科目試験にて評価をする。					
科目試験 90%					
小テスト 10%					
使 用 テ キ ス ト					
「言葉とこどもの文化」豊岡短期大学					
「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館					
「幼稚園教育要領解説」文部科学省編 フレーベル館					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
社会福祉法人、公立、株式会社の保育園において保育士・園長としての実務経験を有する。					

科目名	幼児造形	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	瀧 将仁	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。また、保育実習Ⅱで行う部分・責任実習における造形指導案の作成を通して課題の設定や指導援助計画の立案を学ぶ。前半は保育実習Ⅱにおいて造形指導援助を実践し、振り返りによって学びを深める。					
到達目標					
保育の内容を理解し、乳幼児を含めた造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践を通して、体験的・技術的に学習する。 《学習成果》 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容に基づいた保育の基本について理解できる 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	保育実習Ⅱ 造形指導案の作成（指導案、サンプル）①				
第2回	保育実習Ⅱ 造形指導案の作成（指導案、サンプル）②				
第3回	保育実習Ⅱ 造形指導案の作成（指導案、サンプル）③				
第4回	保育実習Ⅱ 振り返り①				
第5回	保育実習Ⅱ 振り返り②				
第6回	様々な造形課題①				
第7回	様々な造形課題②				
第8回	様々な造形課題③				
第9回	様々な造形課題④				
第10回	立体造形 油粘土を使用した幼児造形指導①象				
第11回	立体造形 油粘土を使用した幼児造形指導②オノマトペ				
第12回	立体造形 油粘土を使用した幼児造形指導③花と植物				
第13回	立体造形 油粘土を使用した幼児造形指導④お弁当				
第14回	幼児造形及び指導・援助のまとめ				
第15回	科目振り返り				
授業時間外の学習					
成績評価					
科目試験90%、小テスト10%					
使用テキスト					
配布資料、制作に必要な用具					
担当教員の実務経験					
幼稚園等において美術、造形指導の実務経験を有する。					

科目名	人間関係論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 朝香	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
この授業では、領域「人間関係」の考え方について理解をし、子どもの人間関係に影響を与える様々な社会的要因（少子高齢化、家族の変化、身近な環境の変化、メディアの変化など）について知識を深めることを目的とする。また、人間関係をはぐくむ際の保育者の役割について理解し、事例を通して子どもとの関わりについても考えていく。					
到達目標					
領域「人間関係」を理解し、子どもを取り巻く社会環境の変化（少子高齢化、家族の変化、身近な環境の変化、メディアの変化など）が、子どもたちの人間関係にどのような影響を与えているかを理解する。加えて、保育者として、子どもたちにどのような支援が必要かを考えることができるようになることを目標としている。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス：授業の進め方と内容を解説、領域「人間関係」とは				
第2回	領域「人間関係」のねらいと内容				
第3回	人間関係を取り巻く社会環境：少子高齢化				
第4回	人間関係を取り巻く社会環境：家族の変化				
第5回	人間関係を取り巻く社会環境：身近な環境の変化				
第6回	人間関係を取り巻く社会環境：メディアの変化				
第7回	人間関係をつむぐ子どもの発達：規範意識と道徳性の芽生え				
第8回	人間関係をつむぐ子どもの発達：ルール、決まりごとの意味と意義				
第9回	人間関係をつむぐ子どもの発達：自立心、協同性の芽生え				
第10回	人間関係をつむぐ子どもの発達：自己発揮と自己抑制の芽生え				
第11回	人間関係と子どもの遊び				
第12回	人間関係と子どもの生活				
第13回	今日的な人間関係の課題：多様な文化の子ども				
第14回	今日的な人間関係の課題：気に留めたい子ども				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：次回の授業に関する教科書を事前に精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関係のある社会での出来事に関心を持つこと。					
成績評価					
科目試験 90%、小テスト 10%で評価する。					
使用テキスト					
『人間関係論』原田敬文ら（著）、豊岡短期大学テキスト					
担当教員の実務経験					
大学、高等学校にてスクールカウンセラーとしての実務経験を有す。					

2024年度

科目名	音楽表現論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	間 正子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
5領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる保育者としての豊かな感性を養う。 また、子どもが表現することの楽しさを生み出す過程を理解し、子どもが表現する力や想像力を育むための知識と具体的な活動、指導法を身に付ける。 指導に必要な、音楽の基礎知識を理解する。 声楽の発声法、呼吸法、歌い方などについて学ぶ。 子どもの歌、童謡、唱歌、手遊び歌、わらべうたなどに親しみ、曲を覚える。					
到達目標					
感性と表現に関する領域「表現」を通して、子どもが様々な感覚を駆使して表現する子どもの「表現」を理解する。 子どもの発達と音楽表現の関係、子どもの音楽的感性や創造性を豊かにする様々な音楽表現遊びやその環境構成などを理解する。 また、音楽表現指導に関する専門知識を身に付け、保育の具体的な指導や援助の計画が立てられるようになる。 感性と表現に関する領域「表現」を理解し、音楽表現指導に関する専門的知識・具体的な指導の方法を身に付ける。 音楽活動に必要な、子どもの歌、童謡、唱歌、手遊び歌、わらべうたを覚える。 発声法、呼吸法、歌い方などを練習し、歌うことに生かす。 音楽の基礎知識について学び、楽譜を読めるようになる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス 5領域「表現」について 発声・呼吸体操				
第2回	音楽表現が子どもに与える影響 春の歌				
第3回	音楽の基礎知識①				
第4回	童謡、唱歌、子どもの歌と、手遊び歌、わらべうたなどの歌う活動				
第5回	子どもの育成に役立つ音楽表現遊びについての考察				
第6回	5領域「表現」の内容と具体的活動内容				
第7回	音楽に親しむことの大切さ。 歌う活動と人間性の育成について				
第8回	音楽の基礎知識②				
第9回	手遊び歌と、リズム遊び				
第10回	夏の歌を楽しむ 生活の歌①				
第11回	音楽の基礎知識③ 生活の歌②				
第12回	音楽の基礎知識④ 子どもの歌				
第13回	これまでのまとめ①				
第14回	これまでのまとめ②				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
・授業の予習・復習を行う ・呼吸体操、発音練習 ・手遊び歌を覚える ・音楽に親しむ					
成績評価					
・科目まとめ90％ ・小テスト10％					
使用テキスト					
・母とおさなごの歌 全音楽譜出版社 ・音楽表現論 豊岡短期大学 ・音楽通論 教育芸術社 ・幼稚園教育要領解説 フレーベル館 ・保育所保育指針解説 フレーベル館 ・配布資料					
担当教員の実務経験					

科 目 名	造形表現論	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	瀧 将仁	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
保育の内容を踏まえ、幼児造形の指導・援助者として、造形の基本的な知識、形や色、材料、用具、表現、技法等の造形の理論をもとに手の動き・感性・造形的思考が一体となった造形活動を理解する。 幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。 また、保育実習Ⅰに向けてスケッチブックや描画材を使用した自己紹介ブックを作成する。					
到 達 目 標					
1.保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2.乳幼児の表現活動の大切さと表現にともなう形、色、材質、手法、材料等について理解できる。 3.乳幼児のえがく、つくる造形活動について、発達段階を踏まえた材料や手法の取り扱いと指導援助について理解できる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	Ⅰ学期授業の振り返り レポート課題についての説明				
第2回	描画における発達段階について①				
第3回	描画における発達段階について②				
第4回	描画における発達段階について③				
第5回	描画における発達段階について④				
第6回	描画における発達段階について⑤				
第7回	描画における発達段階について⑥				
第8回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成①プランニング				
第9回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成②制作				
第10回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成③制作				
第11回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成④制作				
第12回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成⑤制作				
第13回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成発表①				
第14回	保育実習Ⅰ 自己紹介スケッチブック作成発表②				
第15回	科目振り返り				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
成 績 評 価					
科目試験90%、小テスト10%					
使 用 テ キ ス ト					
教科書、配布資料、造形に必要な用具類					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
幼稚園等において美術、造形指導の実務経験を有する。					

科目名	保育実習指導（保育所・施設）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代、伊藤 萌	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
本授業では、保育実習に向けて、保育園や各児童福祉施設等についての理解を深めます。特に児童養護施設や障害者施設といった、保育士資格が求められる保育以外の現場について、実際に知り知識を得ることに重点を置いています。授業を踏まえて、実習を円滑にすすめていくための心構えや具体的な技能の習得を目指します。					
到達目標					
①保育実習Ⅰの意義・目的を再確認し学びを深める ②保育所実習と施設実習に向けて、自らの課題を明確にする ③実習に必要な基礎的な知識を習得し、保育現場で活かせるようにする					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス				
第2回	保育園実習と施設実習の課題を明確にする				
第3回	保育所実習の意義と目的				
第4回	保育園実習の実際～実習記録をもとに～				
第5回	施設実習の意義と目的				
第6回	社会的養護に重点を置いた様々な施設①				
第7回	社会的養護に重点を置いた様々な施設②				
第8回	社会的養護に重点を置いた施設の実際①				
第9回	社会的養護に重点を置いた施設の実際②				
第10回	社会的養護に重点を置いた施設の実際③				
第11回	実習日誌を基に自分自身の施設実習の目標を明確にする				
第12回	実習日誌を基に日々の記録の取り方を確認する				
第13回	保育実習の準備①				
第14回	保育実習の準備②				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：テキスト等により、授業内容の予習をする 事後学習：授業内容を振り返り、内容を理解する					
成績評価					
①科目試験	90%				
②小テスト	10%				
使用テキスト					
『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房 『保育所保育指針』 チャイルド本社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社					
担当教員の実務経験					
倉島：社会福祉法人、公立、株式会社の保育園において保育士・園長としての実務経験を有する。 伊藤：私立幼稚園において幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

2024年度

科 目 名	保育実習事前事後指導	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	倉島 多摩代、米田 朝香、間 正子、水野 沙織、水原 佐和子、伊藤 萌	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位

授業概要

【実習前】

保育実習Ⅰにおける、施設・保育所実習に向けて、実習の意義や目的、実践への過程を学び、事前の具体的な準備を行います。また、実習日誌の記入や実習の手引き等の内容を理解して、実習前に提出する書類の確認等を行い実習に備えます。

【実習後】

実習後に必要な事項の確認や実習で得た学びの振り返りを行います。また、実習報告会に向けて準備を整えます。

到達目標

①実習日誌の記入や実習の手引き等の内容を理解して、実習前に提出する書類を整え準備する。

②実習で得た学びを確認し共有することで、保育現場への理解を深める

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

[illegible]

授業時間外の学習

- ・実習日誌に必要な個所を記入し、完成に向ける
- ・子どもの発達や施設の特性について見直す
- ・実習後のお礼状作成
- ・実習日誌の提出準備

成績評価

実習事前指導・実習事後指導の内容を踏まえ、総合的に評価する

実習事前指導（実習日誌、指導案、保育素材の準備など）

実習事後指導（お礼状の作成、実習日誌の整理）

使用テキスト

『新しい保育講座 保育・教育実習』 ミネルヴァ書房

『新編』保育講座 保育 教育大目録
『保育所保育指針』 チャイルド本社

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 チャイルド本社

担当教員の実務経験

科目名	ピアノ演習Ⅰ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	水野 沙織、間 正子	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
秋の曲とクリスマス・ソングを各自のレベルに合わせて演奏できるようにする。					
バイエル98番の課題曲を演奏する。					
楽典の学習を継続する。					
クリスマス音楽会を企画し、合奏を披露する。					
到達目標					
秋の曲とクリスマスソングを通じて、こどもの歌の伴奏が出来るようにする。					
バイエル98番の演奏を通じて、5歳児クラスを想定した弾き歌い曲に対応できる基礎を作る。					
楽典の学習を継続して、読譜能力をさらに高める。					
合奏体験を通して、ハーモニーやアンサンブルの意識を高め、ピアノ演奏に生かすとともに、子どもたちに合奏指導が出来るようにする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	どんぐりころころ① 楽典				
第2回	小テスト：どんぐりころころ、とんぼのめがね①、楽典				
第3回	とんぼのめがね②、バイエル98番①（終了したら104番）、楽典				
第4回	小テスト：とんぼのめがね、バイエル98番②（終了したら104番）、楽典				
第5回	バイエル98番③（終了したら104番）、楽典、合奏パート決め				
第6回	バイエル98番④（終了したら104番）、クリスマス音楽会・合奏①、楽典				
第7回	あわてんぼうのサンタクロース①、合奏②、楽典				
第8回	あわてんぼうのサンタクロース②、クリスマス音楽会・合奏③、楽典				
第9回	小テスト：あわてんぼうのサンタクロース、クリスマス音楽会・合奏④、楽典				
第10回	楽典、クリスマス音楽会・合奏⑤				
第11回	小テスト：バイエル98番、クリスマス音楽会・合奏⑥				
第12回	楽典まとめ、実技試験対策				
第13回	楽典試験、クリスマス音楽会・合奏⑦				
第14回	科目まとめ				
第15回	合奏発表・ふりかえり				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
学校や自宅で練習をして演奏技術の向上に努めて下さい。 また、楽典も繰り返しテストをしますので、復習して覚えていくようにしてください。					
成績評価					
小テスト：10点 学期末テスト：90点（実技・楽典・合奏振り返り）					
使用テキスト					
母とおさなごのうた					
担当教員の実務経験					

科 目 名	レポート入門Ⅰ	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	伊藤 萌	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	2単位
授 業 概 要					
学生生活において、レポートを作成する機会は多くあります。また、保育の現場でもレポートを通して発信をすることは、保育者にとってとても身近なものと言えます。本授業では、適切な内容や書式でより良いレポートを書くための学習を行います。句読点の使い方、言葉遣い、引用文献の扱い方など細かなことでも、レポート作成では大切なことがたくさんあります。レポート作成の基本を丁寧に触れていきます。					
到 達 目 標					
レポート作成の基本的なルールを知り、適切なレポートが作成できるようになる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション～なぜレポートを書くのか～				
第2回	レポートと論文と作文の違い				
第3回	様々なレポートのタイプ				
第4回	レポートの構成要素				
第5回	ミニレポートを書いてみよう①授業カード・質問カード				
第6回	ミニレポートを書いてみよう②ブックレポート				
第7回	論文作成10のステップ				
第8回	課題が出てから1～2週間ですべきこと～思考マップをつくってみよう～				
第9回	課題が出てから3～4週間ですべきこと～目標規定文をつくってみよう～				
第10回	論文完成までの最終段階までにすべきこと				
第11回	知っておきたい表記や引用やルール				
第12回	実際にレポートを書こう①				
第13回	実際にレポートを書こう②				
第14回	実際にレポートを書こう③				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：テキストの該当範囲に目を通し、講義内容を把握しておく 事後学習：各回に提示する課題を解く					
成 績 評 価					
①科目試験	90%				
②小テスト	10%				
使 用 テ キ ス ト					
『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』 ナツメ社 著者 石井一成					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
私立幼稚園にて幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

科 目 名	レポート入門Ⅱ	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	伊藤 萌	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	2単位
授 業 概 要					
レポート作成の基礎を学習し、実際にレポートを作成します。さらに、その作成した文章を検討しあうことで、他者に自分の考えやアイディアを分かりやすく伝え、読む人を納得させることのできる技量を身に着けていきます。また、文章を吟味する過程の中で、レポート作成の上で基本となる文法や国語の一般知識について学習を深めていきます。					
到 達 目 標					
①レポート作成について理解し、実践力を高める ②国語の一般的な基礎知識を理解し、それらについて適切な使い方ができる					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション～前期の振り返り～				
第2回	レポート作成について 国語とは				
第3回	レポート作成について 言葉の伝播				
第4回	レポート作成について 話し言葉と書き言葉				
第5回	レポート作成について 幼児の言葉				
第6回	レポート作成について 日本語オノマトペ				
第7回	レポート作成について カタカナ語				
第8回	レポート作成について 日本語の特色				
第9回	レポート作成について 文章の基本				
第10回	レポート作成について 漢字				
第11回	レポート作成について 挨拶				
第12回	レポート作成について 敬語				
第13回	レポート作成について 美しい日本語の表現				
第14回	レポート作成について 正しい日本語				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前事後学習：日常に溢れる様々な日本語に関心をもって過ごす。					
成 績 評 価					
①科目試験 90% ②小テスト 10%					
使 用 テ キ ス ト					
『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』 ナツメ社 著者 石井一成					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
私立幼稚園にて幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

科 目 名	こどもの理解と援助	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	林 若子	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
<p>保育者は、その子その子のその時その時の「最善の利益」を瞬時に判断しなければなりません。それには、子どもをどう理解するかが問題になります。一般的な発達過程におけるその段階における子どもの理解とその子のその時の状況と個性を把握するという両面から適切な「理解」が生まれます。</p> <p>「肯定的に理解する」とか「共感する」とはどういうことか、そこからどういう方向に「援助」をするのか、さまざまな事例を通して学びます。</p>					
到 達 目 標					
<p>1, 乳幼児の発達過程と各段階の特徴を理解する。</p> <p>2, いわゆる「気になる子」をどう捉えるか考える。</p> <p>3, それらを踏まえた援助のあり方を理解する。</p>					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	科目ガイダンス				
第2回	0～1歳児の理解と援助				
第3回	1～2歳児の理解と援助				
第4回	2～3歳児の理解と援助				
第5回	3～4歳児の理解と援助				
第6回	4～5歳児の理解と援助				
第7回	5～6歳児の理解と援助				
第8回	異年齢保育における子どものすがた				
第9回	「気になる子」の理解と援助①				
第10回	「気になる子」の理解と援助②				
第11回	「気になる子」の理解と援助③				
第12回	「気になる子」の理解と援助④				
第13回	「気になる子」が変わるとき				
第14回	科目のまとめ①				
第15回	科目のまとめ②				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
授業で取り上げる部分以外もテキストを読み込む。					
成 績 評 価					
筆記試験90％ 小テスト10％					
使 用 テ キ ス ト					
『どの子にもあ～楽しかった！の毎日を』赤木和重、岡村由紀子ほか　ひとなる書房					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					

2024年度

科目名	こどもの保健	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	三浦 由美	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
①小児保健の意義を理解し、それぞれの発達段階における身体的、生理的も踏まえた精神機能の発達について学ぶ。 ②発達段階における子どもの病気の特徴や予防について学び、健康状態の把握の方法、他の関係機関との連携の在り方を学び適切な対応について理解する。 生活動に関連する機関、施設役割について理解する。③子どもの保険衛					
到達目標					
①子どもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かすことができる。 を取り巻く多様な環境を理解し、他社との連携を取りながら保育を行うことができる。②子ども					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	子どもの健康の概念を理解する				
第2回	子どもの健康指評および現代の子どもの健康に関する現状と課題について理解する				
第3回	子どもの身体的発育・発達と保健について学ぶ				
第4回	DoHad説（胎児性生活習慣病）について学ぶ				
第5回	子どもの心身の健康状態；健康状態の観察、心身の不調などの早期発見について学ぶ				
第6回	子どもの心身の健康状態；発育・発達の把握について学ぶ				
第7回	障害がある子どもへの対応について学ぶ				
第8回	地域における保健活動と虐待について学ぶ				
第9回	子どもの疾病の予防及び適切な対応①主な疾病の特徴について学ぶ				
第10回	子どもの疾病の予防及び適切な対応②疾病の予防と適切な対応について学ぶ				
第11回	感染症対策について学ぶ				
第12回	災害対策について学ぶ				
第13回	事故防止・安全対策について学ぶ				
第14回	健康および安全管理の実施				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
授業後、各自「振り返り」を行ってください。					
成績評価					
科目まとめ試験（90％）・小テスト（10％）にて評価をする。					
使用テキスト					
こどもの保健(豊岡短期大学)、レジュメ適宜配布					
担当教員の実務経験					
病院等において管理栄養士としての実務経験を有する。					

科目名	こどもの食と栄養	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	山口 恭子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

人間が心身ともに健康的な生活を送るために何をどのように食べたらよいのかを理解し、その知識をこどもたちの健全な発育・発達につなげるための知識と具体的な手法を学ぶ。講義、小テスト、科目試験を通して、食と栄養の基本的な知識、小児の発育・発達と食の関わりを中心にライフステージごとの食のあり方を学んで理解し、演習等の主体的な学びを通して、習得した知識を活用し実践できる力を身につける。

到達目標

- 1.健康な生活の基本である食の意義や基本的知識を理解し実践する力を身につける。
- 2.こどもの発育・発達に合わせた食生活とその意義及び基本的知識について理解し、こども個人及び集団に適した知識の活用が考えられる。
- 3.食育を行うための基礎知識を学びその重要性を理解し、食育を行うための地域社会との関わりを持ちながら、知識を実践につなげる方法が考えられる。
- 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。
- 5.特別な配慮を要するこどもの食と栄養について理解する。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	子どもの心身の健康と食生活
第2回	子どもの発育・発達と食生活
第3回	栄養に関する基本的知識① エネルギー、栄養素、代謝に関する基本的知識
第4回	栄養に関する基本的知識② 食事摂取基準、食事構成
第5回	乳児期の栄養と食生活① 乳児期の身体的・生理的特徴
第6回	乳児期の栄養と食生活② 離乳期の栄養
第7回	幼児期の栄養と食生活① 食機能の発達と成長、食事、間食の意義とその実践
第8回	幼児期の栄養と食生活② 栄養上の問題と健康への対応
第9回	妊娠期、学童・思春期、成人期、高齢期の栄養と食生活
第10回	調乳・離乳食実習（前半班）／食育課題演習（後半班）
第11回	調乳・離乳食実習（後半班）／食育演習（前半班）
第12回	小児期の栄養教育（食育）① 食育の必要性和食育基本法
第13回	小児期の栄養教育（食育）② 食育の実際／家庭や児童福祉施設における食事と栄養
第14回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養／食物アレルギーの基本的知識
第15回	科目まとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

事前学習：テキストを読み、講義内容を把握しておく。
事後学習：講義内容や配布資料等を復習する。

成績評価

科目試験：90%、小テスト：10%

使用テキスト

「イラスト子どもの食と栄養」森脇千夏ら著、東京教学社、2021
「子どもの食と栄養」豊岡短期大学

担当教員の実務経験

保健福祉センター等において、食育、母子保健指導の実務経験を有する。

科 目 名	保育内容（健康Ⅰ）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	門倉 洋輔	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
子どもの健康を支援する保育者に必要な理論について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「健康領域」に関するねらいや内容の解説から学び、子どもの健康を意識した保育教材の作成、計画、指導技術を習得する。特に、乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達における特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。					

科 目 名	保育内容（環境Ⅰ）	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	中村 リヨ	配 当 年 次	1学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	1単位
授 業 概 要					
<ul style="list-style-type: none">・「環境を通して行う教育・保育」という内容を理解する。・演習を通して、色々な素材を教材研究し環境を通して行う教育・保育を考え実践力を身につける。・保育者として、周囲の環境にかかわる力をもつために、身近な自然や社会の事象を知ることが必要です。課題を各自で調べたり、発表したりしながら「環境」に対する理解の幅を広げ深める。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none">・「幼稚園教育要領」及び「保育所保育指針」に示されている環境を通して行う教育・保育の基本と領域「環境」の内容を理解し、遊びや活動の指導をするために必要なことを学ぶ。・「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」という領域「環境」のねらいと内容を理解し、保育者に必要とされる基本的な知識と指導法を身につける。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	イントロダクション・環境とは				
第2回	幼児教育の目的と領域 幼児期にふさわしい保育とは				
第3回	幼児教育の基本 遊びを通しての総合的な指導				
第4回	領域「環境」と他領域との関係 ねらいと内容				
第5回	環境を通しての教育 場・もの・ひと				
第6回	保育者のさまざまな役割 用意、見守り、支える				
第7回	子どもの育ちと領域「環境」 自然に親しみ植物や生き物に触れる（演習含む）				
第8回	子どもの育ちと領域「環境」 自然の美しさ大きさ不思議さに触れる（演習含む）				
第9回	子どもの育ちと領域「環境」 ものや道具にかかわって遊ぶ（演習含む）				
第10回	子どもの育ちと領域「環境」 身近なものを使い、工夫する（演習含む）				
第11回	子どもの育ちと領域「環境」 文字や標識、数量や図形に関心をもち、親しむ。				
第12回	子どもと環境のかかわりをとらえる視点 感じる、表現する、発見する、探求する				
第13回	幼児教育の現代的課題と領域「環境」 子どもの育ちと学びを理解する				
第14回	保育者の役割 生活と学びの連続性				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習・「幼稚園教育要領解説」（最新版）「保育所保育指針解説」（最新版）熟読する。					
事後学習・講義内容を復讐する。					
成 績 評 価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使 用 テ キ ス ト					
授業時に資料配付 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

科目名	保育の表現技術（声楽）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	間 正子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
<p>子どもの生活の中での音楽の大切さと、その影響を知る。 演習などを通して、保育現場で活用できる保育技術を学ぶ。 これまでに学んだ幼児音楽を復習し、演奏技術を高める。 ストレッチ体操、呼吸体操、発声練習。 曲の階名読み、リズム読みなどを学び、ソルフェージュの基礎力を高める。 実習や保育現場に必要な音楽や歌についての活動内容を考察する。 子どもの歌、季節・行事の歌、童謡・唱歌・わらべうたを数多く覚え、曲の「表現」について学ぶ。 保育活動に「歌」をどのように生かしていくか、具体的に立案する。</p>					
到達目標					
<p>幼児期における音楽の大切さと必要性を、歌を通して具体的に学び、表現する。 声楽の発声や呼吸法、歌い方について学ぶ。 保育現場において、手遊び歌、子どもの歌、季節の歌を使用した活動について立案する。 曲の表現や、内容を伝えられるよう、ソルフェージュの基礎力もつけながら学び、演奏する。 保育者として、幼児音楽をどのように捉えるか。またそれをどのように生かしていくかを学ぶ。 音楽が子どもに与える影響について考察し、子どもが楽しみながら行える活動を立案し、実践する。 子どもの成長過程においても、大人になってからも、音楽を好きでいられるように、音楽を生かした保育技術を習得し、保育現場で活用できる力をつける。</p>					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス　子どもの生活と音楽について				
第2回	音楽の基礎知識　ソルフェージュ（リズム）				
第3回	呼吸法、発声について　季節の歌「春」				
第4回	子どもの歌、童謡、唱歌について				
第5回	音楽を活かした保育活動の考察				
第6回	手遊び歌について				
第7回	子どもの歌と音楽表現				
第8回	「歌うこと」の表現活動				
第9回	ソルフェージュ（音程）　季節の歌（夏）				
第10回	表現と歌について				
第11回	音楽を用いた活動プログラム①				
第12回	音楽を用いた活動プログラム②				
第13回	これまでのまとめ①				
第14回	科目まとめ				
第15回	これまでのまとめ②				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
<ul style="list-style-type: none">・呼吸体操・手遊び歌を練習して覚える・音楽に親しむ・曲の内容表現について考える・生活の回りでの、子どもの姿などを通して、音楽表現との結びつきを意識する					
成績評価					
<ul style="list-style-type: none">・科目まとめ90％・小テスト10％					
使用テキスト					
<ul style="list-style-type: none">・母とおさなこの歌　全音楽譜出版社・音楽通論　教育芸術社・配布資料					
担当教員の実務経験					

科目名	こどもと造形	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	瀧 将仁	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。また、教育実習で行う部分・責任実習における造形指導案の作成を通して課題の設定や指導援助計画の立案を学ぶ。					
到達目標					
保育の内容を理解し、乳幼児を含めた造形の指導援助者として、こどもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識、さらに材料・用具の操作体験など実践を通して、体験的・技術的に学習する。 《学習成果》 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容に基づいた保育の基本について理解できる 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について①えがく領域の指導案思案（A案）				
第2回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について②えがく領域の指導案作成（A案）				
第3回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について③つくる領域の指導案思案（A案）				
第4回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について④つくる領域の指導案作成（A案）				
第5回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑤造形あそびの指導案思案（A案）				
第6回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑥造形あそびの指導案作成（A案）				
第7回	幼稚園教育実習 造形指導及び援助の振り返り①				
第8回	幼稚園教育実習 造形指導及び援助の振り返り②				
第9回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について①えがく領域の指導案思案（B案）				
第10回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について②えがく領域の指導案作成（B案）				
第11回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について③つくる領域の指導案思案（B案）				
第12回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について④つくる領域の指導案作成（B案）				
第13回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑤造形あそびの指導案思案（B案）				
第14回	科目まとめ「幼児造形教育における指導・援助について」				
第15回	責任実習・部分実習における造形指導及び援助について⑥造形あそびの指導案作成（B案）				
授業時間外の学習					
2学年の主たる学習は幼稚園教育実習や保育実習Ⅱでの実践です。実習での部分・責任実習は非常に重要ですので、日頃からインターネットや書籍等を活用して造形指導案に関する情報収集や事前準備を心がけて					
成績評価					
科目試験90%、小テスト10%					
使用テキスト					
造形表現論（Aコースのみ）、配布データ及びプリント					
担当教員の実務経験					
幼稚園等において美術、造形指導の実務経験を有する。					

2024年度

科目名	こどもの指導法（言語表現）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	榎本 トミ	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
この授業では、幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」と幼児の心の表現を学び、言語表現に利用できる国内外の様々な保育実践についても体験し、その取り組みが子ども達にどのような影響があるのかを学んでいく。エリクソンの人間の発達課題を基に、乳幼児期の成長過程でどのような喜びを持たせながら、保護者と共に子どもの成長を見ていくことが大切なのかを理解し学ぶ。「愛着」（基本的信頼）の大切さが子どもの成長、親子関係に大きな影響を及ぼすことを学ぶ。お喋りのできることがコミュニケーション力ではないことを認識していく。人間にとって、社会の中で、人と交わる力がいつから育つのかを考えていく。わらべ唄あそび、言葉あそびうたの楽しさを知るとともに、日本語の面白さや不思議さを体験し味わい、伝えていこうとする意志を培う。					
到達目標					
子どもの成長過程と発達課題を理解し、人間関係を築いていく上で、根柢のない溢れるほどの愛情が、なぜ、子ども達に大切なのかを理解していく。それに関わる「言葉」の果たす役割の重要性と「伝え合い」の大切さ、大事さを理解する。言葉が人間関係をつくるうえで重要な役割を果たすこと、毎日の生活の中で言葉のもつ「こころ」を常に大人の真似をして育つ子ども達に使い続けている事を深く理解し、一人ひとりの子どもに掛けていく言葉の重要性を考えていける人間（大人）になるようにする。その為に、家庭や幼稚園、保育園でどのようなことを大切に、また、注意しながら育てていけばよいのかを理解し、保護者との連携が重要であることを理解する。日常の言葉かけから、子ども達が自分らしさをしっかり表現できる子どもにする為に、一人ひとりの子どもに目をむけ、信頼関係を築いていこうとする幼稚園教諭・保育士を目指し、目標を持つ。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	自己紹介をする。保育士を目指す理由を話す。				
第2回	言葉あそび、わらべ唄あそびで遊ぶ。				
第3回	エリクソンの発達課題とわらべうたの関係を知る。				
第4回	季節のわらべ唄で遊ぶ。楽しさを味わう。				
第5回	集団でのわらべ唄あそびを楽しむ。				
第6回	叱ると怒るの違いは何か。わらべ唄で遊ぶ。				
第7回	手遊び、かぞえうたで遊ぶ。				
第8回	子どもへの「絵本」の必要性和伝え方を学ぶ。				
第9回	言葉かけの大切さを知る。わらべ唄で遊ぶ。				
第10回	実習で感じた事をグループ討議する。				
第11回	日本の昔話をどのように体験してきたか。				
第12回	わらべ唄遊びのリクエストで遊ぶ。				
第13回	自分の特技を保育に活かすには？				
第14回	乳児、幼児のわらべ唄で遊ぶ。				
第15回	今までの授業の振り返り				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：内容についての把握をしておく。授業で歌ったわらべうたや言葉あそびを覚えてくる。 事後学習：授業の復習					
※積極的に乳幼児期の子どもたちに与えたい「絵本」「日本の昔話」「世界の昔話」などに触れておく。子どもたちとの関わりを持てる機会をつくる。					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
参考資料として「わらべうたによる音楽教育」本間雅夫/鈴木敏朗（自由現代社） 「伝え合いの音楽教育」東京保育問題研究会音楽部会（いかだ社）「わらべうた」で子育て阿部ヤエ（入門編応用編）福音館書店新訂わらべうたであそぼう（コダーイ芸術研究所）遠野のわらべ唄の語り伝え「人を育てる唄」阿部ヤエ（エイデル研究所）「わらべうた」谷川俊					
担当教員の実務経験					
社会福祉法人保育園において保育士・園長としての実務経験を有する。					

科目名	乳幼児保育Ⅱ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
近代社会において乳幼児保育の期待が高まっている。少子化の進行にも関わらず、乳幼児保育を必要とする家庭は増加し、その需要は増大している。また、家庭において子育てをしている親は核家族家庭も多く、子育ての不安も大きい。乳幼児期の「子育て支援事業」は全国各地において求められ、多くの親の支えになっている。 本科目では、「乳幼児保育Ⅰ」で修得した知識に基づき、乳幼児保育における具体的な援助や配慮・計画の方法を学び、理解することを目的とする。					
到達目標					
①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を理解する。 ②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境構成について理解する。 ③乳幼児保育における配慮の実践について理解する。 ④乳幼児保育における計画の作成について理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス / 乳幼児保育の基本① 子どもと保育士等の関係の重要性				
第2回	乳幼児保育の基本② 子どもの主体性の尊重と自己の育ち				
第3回	保育所の一日の理解と、生活の流れと保育の環境				
第4回	乳幼児保育の内容と方法①「0歳児の保育と生活・遊び」				
第5回	乳幼児保育の内容と方法②「0歳児における保育の計画の実践」				
第6回	乳幼児保育の内容と方法③「1歳児の保育と生活・遊び」				
第7回	乳幼児保育の内容と方法④「1歳児における保育の計画の実践」				
第8回	乳幼児保育の内容と方法⑤「2歳児の保育と生活・遊び」				
第9回	乳幼児保育の内容と方法⑥「2歳児における保育の計画の実践」				
第10回	乳幼児の心身の健康と安全				
第11回	乳幼児の全体的な計画と指導計画①「長期的な指導計画と短期的な指導計画」				
第12回	乳幼児の全体的な計画と指導計画②「個別的な指導計画と集団の指導計画」				
第13回	乳児期の環境と人間関係				
第14回	保育者の役割 / 乳幼児保育と保育者に望まれること				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：教科書、配布資料等により講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。					
成績評価					
科目試験にて評価をする。 科目試験 90％ 小テスト 10％					
使用テキスト					
テキスト：「乳幼児保育Ⅰ」 豊岡短期大学 著者：國光みどり・倉本洋子・鈴木富美子・山中ます子 「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 配布資料：適宜 必要に応じて					
担当教員の実務経験					
保育経験：社会福祉法人、株式会社保育園において保育者、園長歴 教育歴2年					

2024年度

科目名	こどもの健康と安全	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	三浦 由美	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
*保育現場において保健活動の知識を育てる授業 *子どもの健康教育が適切に実践できる授業 *子どもの病気・ケガの対応ができる授業 *子どもの救命手技が身に付く授業*保育現場において保健活動の知識を育てる授業 *子どもの健康教育が適切に実践できる授業”					
到達目標					
「子どもの保健」で学んだ知識を基に、保育者として、子どもの健康の保育増進および安全対策に必要な援助技術を修得する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	こどもの身体計測の仕方について学ぶ。（母子健康手帳を用いて）				
第2回	こどもの発育を評価する方法を習得する。（母子健康手帳を用いて）				
第3回	衛生管理・スタンダードプリコーションについて学ぶ。（手洗いチェッカーを用いて）				
第4回	こどもの主な症状の対応について学ぶ。（発熱、けいれん発作、咳嗽）				
第5回	意識の急変への対応について学ぶ。（アナフィラキシー、喘息、DM）				
第6回	BLS：第一次救命処置法を習得する①CPR 乳児・小児（AEDを含めた対応）				
第7回	BLS：第一次救命処置法を習得する②CPR 成人				
第8回	BLS：第一次救命処置法を習得する③窒息対応（乳児・小児異物除去法）				
第9回	保育所におけるアレルギー対応ガイドラインにつて学ぶ。（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）				
第10回	食物アレルギーとその対応、エピペンの使い方を習得する。				
第11回	応急処置法を習得する。（傷、熱傷、骨折、打撲）の手当て（包帯・三角巾の使い方）				
第12回	防災対策・危機管理マニュアル作成について学ぶ。				
第13回	救命カルタ作成①				
第14回	救命カルタ作成②				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習：教科書などにより、講義内容を把握しておく。 事後学習：各回で提示する課題を解く。					
成績評価					
科目まとめ（90％）・小テスト（10％）にて評価をする。					
使用テキスト					
子どもの健康と安全（中央法規）					
担当教員の実務経験					
病院等において管理栄養士としての実務経験を有する。					

科目名	障害児保育	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	大部 さつき	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
保育及び教育現場では個別的なニーズを有する幼児への適切な支援や配慮が欠かせないものとなっている。特別支援保育の基本的な考え方について理解するとともに、障害種別の特性や支援方法について基礎的な知識の習得をめざす。また、子育て支援の観点から、障害のある子どもの保護者が、どのように子育てに取り組んでいるのかを知るとともに、映像やテキスト資料を通じてその現状と課題について理解する。					
到達目標					
①特別な支援を必要とする幼児の障害の特性および心身の発達について理解する。②特別な支援を必要とする幼児に対する支援や関係機関との連携について理解する。③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの現状と課題について理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	障害児保育の歴史				
第3回	障害受容と心の支援				
第4回	インクルーシブ保育				
第5回	障害の理解と支援①				
第6回	障害の理解と支援②				
第7回	障害の理解と支援③				
第8回	障害の理解と支援④				
第9回	障害理解と対応				
第10回	コミュニケーションを学ぶ				
第11回	家族支援①				
第12回	家族支援②				
第13回	多専門職との連携				
第14回	障害児を取り巻く環境と課題				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
学習内容の振り返り、内容を理解する。					
成績評価					
科目の成績評価、小テスト結果10%、科目試験結果90%で判定					
使用テキスト					
配布された資料他					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	子育て支援	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 朝香	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
この授業では、保育所・認定こども園などにおいて保育者が行う子育て支援の理論や方法についての学びを深めることを目的とする。そのため、子育て支援に必要な基本的な知識の修得に加え、様々な事例をもとに個人ワークやグループワークを通して「子育て支援」についての理解を深めていく。グループワークを通して他者と意見交換をする中で、他者への理解、また自分自身への気づきを大切にもらいたい。					
到達目標					
子育て支援に関する基本的な知識を修得し、様々な事例を通して保育士に求められる支援の内容や方法を具体的に理解することを到達目標とする。また、子育て支援を取り巻く社会の流れや変化に関心をもち、自分は支援者として「子育て支援」をどのように感じ、どのような支援者像を持っているかといった自身の気づきや理解も深めてもらいたい。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス：授業の進め方や内容の説明、子育て支援とは				
第2回	子育て支援の意義				
第3回	子育て支援の基本的価値・倫理				
第4回	子育て支援の基本的な姿勢				
第5回	子育て支援の基本的技術				
第6回	圏内・圏外との連携と社会資源				
第7回	記録・評価・研修				
第8回	日常会話を活用した子育て支援				
第9回	文章を活用した子育て支援				
第10回	行事などを活用した子育て支援				
第11回	環境を活用した子育て支援				
第12回	地域子育て支援拠点における支援				
第13回	入所施設における子育て支援				
第14回	通所施設における子育て支援				
第15回	科目まとめ				
授業時間外の学習					
事前学習：次の回のテキストを精読し、内容を把握しておくこと。 事後学習：授業の内容を振り返りまとめる。また、その回に学んだことと関連のある社会での出来事に関心を持つこと。					
成績評価					
科目試験 90%、小テスト 10%で評価する。					
使用テキスト					
『子育て支援15のストーリーで学ぶワークブック』萌文書林（2018）					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	教職実践演習（幼・小）	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	中村 リヨ	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
これまでに形成された資質能力を確認し、これからの自己の課題の自覚と克服に努める。 教職生活を円滑にスタートできるように、学校現場の視点に立った様々な場面でのリスクマネジメントや保育カンファレンス及び保育実技を通して実践的指導力を身に付ける。					
到達目標					
これまで学んできた学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏付けされた確かな実践的指導力を身に付けた「学級担任ができる」人材を育てる。 その際、教育現場・保育現場で直面する問題に対して対応力を学ぶことをねらいとする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	教師という職業 ①教職の意義				
第2回	教師という職業 ②教師に求められる資質と能力、研究・研修の必要性				
第3回	学級経営 ①学級とは、学級経営とは、学級経営の位置づけ				
第4回	学級経営 ②学級担任の役割、学級経営案の作り方				
第5回	特別支援教育の基礎 ①発達障害とは何か、発達障害の共通点				
第6回	特別支援教育の基礎 ②発達障害の諸障害および知的障害の概要				
第7回	特別支援教育と教師・保育者 ①「特別な教育ニーズ」をもつ子どもと保護者への対応				
第8回	特別支援教育と教師・保育者 ②教師・保育者における支援の留意点とポイント				
第9回	保育における集団の編成 ①異年齢保育				
第10回	保育における集団の編成 ②統合保育				
第11回	幼児教育の将来的展望				
第12回	幼保小連携 ①小学校教育との接続とは				
第13回	幼保小連携 ②学びの発達の連続性からみた5歳児の発達をどう捉えるか				
第14回	幼保小連携 ③幼児教育と小学校教育の円滑な接続のために				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく 習・講義内容を復習する					事後学
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「保育・教職実践演習」配本テキスト（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館）					
担当教員の実務経験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

2024年度

科目名	特別支援教育	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	米田 憲和	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
テキストに沿って障害児教育の概要を学習していきます。障害児のための教育の歴史から、障害の種別や現在の特別支援教育の実態などを資料をもとに学習していきます。 小テストも実施します。					
到達目標					
障害児教育の歴史を理解できる。 特別支援教育における指導のあり方を考える事がことができる 各障害の特徴を理解できる。 以上の観点でテストを行います。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	学習予定について障害理解のための動画鑑賞				
第2回	特別支援教育の歴史と教育機関				
第3回	障害を持つ児童の就学				
第4回	特別支援教育の対象者について				
第5回	障害児の指導について				
第6回	障害の概要				
第7回	知的障害の病理				
第8回	特別支援教育の課題 インクルーシブ教育 早期教育				
第9回	障害に対する教育 重度・重複障害 視覚障害 聴覚障害				
第10回	障害に対する教育 知的障害 肢体不自由障害				
第11回	障害児保育について				
第12回	障害のある子どもに対する教育				
第13回	特別支援教育の生活指導の実践 家庭の問題				
第14回	アセスメントに基づく計画と評価 復習				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
テキストをよく理解するよう事前に読んでください。					
成績評価					
テスト90% 授業内での小テスト10% で評価します。					
使用テキスト					
「特別支援教育」 著者 野口和也 渡辺隼人他 豊岡短期大学通信教育部発行 平成31年3月31日発行					
担当教員の実務経験					
中学校において特別支援学級教諭の実務経験を有する。					

科 目 名	こどもと文化	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	倉島 多摩代	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	演習	単 位	2単位
授 業 概 要					
日本に受け継がれている児童文化、児童文化財について理解を深め、絵本、紙芝居、ペープサート、シアター等、様々な種類の児童文化財を用いて、子どもの発達や興味・関心に沿った演じ方を習得する。					
到 達 目 標					
①児童文化財の持つ意味を知り、保育の現場に生かせる知識を持つ。 ②児童文化財の理解を深め、演習を通じて子どもと適切に接することができる。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス / こどもと文化について				
第2回	児童文化財制作				
第3回	児童文化財制作と児童文化財を使った演習				
第4回	絵本の読み聞かせの基本				
第5回	絵本の読み聞かせ・演習①				
第6回	絵本の読み聞かせ・演習②				
第7回	紙芝居の演じ方				
第8回	手あそびの演習①				
第9回	手あそびの演習②				
第10回	児童文化財を使った演習 / 児童文化財制作準備				
第11回	児童文化財制作				
第12回	児童文化財制作				
第13回	児童文化財制作				
第14回	児童文化財制作と児童文化財を使った演習				
第15回	科目まとめ				
授 業 時 間 外 の 学 習					
事前学習：配布資料等により講義、演習内容を把握する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。					
成 績 評 価					
科目試験にて評価する。 科目試験90％ 小テスト10％					
使 用 テ キ ス ト					
「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 他、配布資料等					
担 当 教 員 の 実 務 経 験					
保育経験：社会福祉法人、株式会社保育園において保育者、園長歴 教育歴2年					

科 目 名	健康論	対 象 学 科	こども保育学科Aコース		
担 当 教 員	三浦 由美	配 当 年 次	2学年	開 講 時 期	
		授 業 形 態	講義	単 位	1単位
授 業 概 要					
①健康の意味、健康に関わる子どもの生活実態および心身の健康を理解する。 管理・防災を学ぶことで安全な場での保育を提供できる方法を理解する。②危機					
到達目標					
危機管理学・防災を学ぶことにより、子どもたちの命を守る術を身に着け、「健康」に繋げることができる知識を習得する。					
授 業 計 画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	健康の意味：健康の考え方、子どもの健康の考え方、人権としての子どもの健康について学ぶ				
第2回	健康において育むもの、健康にかかわる生活実態（遊び、習い事、食生活、生活のリズム、心の問題）について学ぶ				
第3回	子どもの心身の健康①：心と身体に関連・基本的生活習慣や態度の重要性について学ぶ				
第4回	園の防災・危機管理学（災害・防災総論）について学ぶ				
第5回	園の防災・危機管理学（事例）について学ぶ				
第6回	チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる①				
第7回	チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる②				
第8回	チャイルドビジョンをつけ校内におけるハザードマップをつくる③				
第9回	ハザードマップグループ発表				
第10回	保健活動（グループに分かれ、教材の作成①：衛生）				
第11回	保健活動（グループに分かれ、教材の作成②：衛生）				
第12回	保健活動（グループに分かれ、教材の作成①：栄養）				
第13回	保健活動（グループに分かれ、教材の作成②：栄養）				
第14回	保健活動（グループに分かれ、教材の作成①：休養）				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授 業 時 間 外 の 学 習					
授業後、各自「振り返り」を行ってください。					
成績評価					
科目試験90%、小テスト10%					
使用テキスト					
『健康論』（豊岡短期大学）					
担当教員の実務経験					
病院等において管理栄養士としての実務経験を有する。					

2024年度

科目名	環境論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	中村 リヨ	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	1単位
授業概要					
子どもを取り巻く環境は様々であり、その中で子どもは生活をしている。保育環境の理解に基づき具体的な環境例を通して環境と子どもの発達の関係性を考える。 また、環境を通して行う保育の意味を学習し、幼児の主体的な活動を促すとともに発達に沿ったねらいが達成できるような意図的な保育環境をデザインする。					
到達目標					
幼児期の教育は、生涯にわたる人格の基礎を培う重要なものである。教育要領改定の柱である「生きる力」について理解を深めるとともに、幼児期に育みたい資質・能力としての、「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」についての内容や関わりについても理解する。 このことを踏まえて、環境構成や活動を考え、指導・援助の在り方について実践的な学ぶを深める。その上で、人的環境としての保育者の役割や資質・能力について、自分を見つめて考え自分の課題を見出す。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	子どもにとっての環境 ①環境という言葉、環境の定義				
第2回	子どもにとっての環境 ②環境を通して行う保育の意味				
第3回	保育環境と領域「環境」は何が違うのか ①保育環境と領域「環境」の違い				
第4回	保育環境と領域「環境」は何が違うのか ②領域「環境」の指導計画				
第5回	保育環境にはどのようなものがあるか ①人的環境・物的環境、自然環境、社会・文化環境				
第6回	保育環境にはどのようなものがあるか ②文字・標識・数量・図形				
第7回	幼児と身近な環境との出会い ①人的環境との関わり				
第8回	幼児の身近な環境との出会い ②遊具、素材、自然環境との関わり				
第9回	子どもにとっての行事 ①行事の役割と意義				
第10回	子どもにとっての行事 ②季節の行事と地域の行事				
第11回	地域・施設を理解しよう ①住んでいる町の探検、施設の訪問				
第12回	環境を大切にしよう ①ひと、もの、命を大切にする ②幼児ができる環境保護				
第13回	保育者としての専門性の向上 今求められる専門性				
第14回	科目のまとめ				
第15回	科目の振り返り （Society5.0とこれからもとめられる専門性）				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習・テキストにより講義内容を把握しておく 事後学習・講義内容を復習する					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
「環境論」配本テキスト（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）					
担当教員の実務経験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

2024年度

科目名	こどもと体育	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	水原 佐和子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
・ 幼児向けの運動遊びを様々な方面から検討し、実施者／参加者、双方の立場からの理解を深める ・ 指導案を作成する。運動遊びの計画立案、実践、その後の振り返りを通じ、保育現場における運動遊びへの関わり方を学ぶ ・ 身体表現の実技を行う					
到達目標					
1. 年齢や発達段階に即した運動遊びの具体的内容を検討する 2. それぞれの運動遊びについてのねらいを設定し、実践内容を計画する 3. 必要な環境設定や安全配慮を工夫する 4. 1～3について指導案上で実施計画を組み立て、個別発表を通じその内容を実践する 5. 年齢と遊びの発展について理解を深める					
※下記の授業内容は、進捗状況により変更が生じる場合や内容が前後することがある					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	運動遊びの計画立案（指導案作成）				
第3回	個別発表と振り返り①				
第4回	個別発表と振り返り②				
第5回	個別発表と振り返り③				
第6回	個別発表と振り返り④				
第7回	個別発表と振り返り⑤				
第8回	教育実習振り返り（運動遊びや自身の関わりについて）				
第9回	教育実習振り返り報告発表（運動遊びや自身の関わりについて）				
第10回	身体表現①				
第11回	身体表現②				
第12回	事例検討：遊びとねらい①（映像視聴）				
第13回	事例検討：遊びとねらい②（運動遊び活動とそのねらい）				
第14回	運動遊びの計画立案（保育実習Ⅱ）				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
子どもの運動遊びや身体表現の様子に、意識して目を向けるようにしましょう					
成績評価					
以下の点から評価をする ①科目試験90％ ②小テスト10％ ※実技授業参加における注意点 ・ 見学は事前申告を行うことにより可（※レポート提出有） ・ 肩にかかる髪は結ぶこと					
使用テキスト					
適宜配布					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	保育実習Ⅱ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代、米田 朝香、間 正子、水野 沙織、水原 佐和子、伊藤 萌	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	2単位

授業概要

保育所における実習（合計11日間/90時間以上）
保育所の保育を実践し、保育士として必要な資質や能力、技術を習得する。また、家庭や地域との連携も学び、子ども家庭福祉に対する理解を深める。

到達目標

- ①保育所及び保育士に求められること、その役割についての知識を得る
- ②多様な子どもへの対応の在り方について学ぶ
- ③保育全般に参加し、実践に即した保育技術を習得する
- ④子どもの最善の利益への配慮、保育士としての職業倫理についての感覚を養う

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	1日目～5日目 「参加」実習施設について理解する
第2回	1日目～5日目 「参加」保育の一日の流れを理解し、積極的に参加する
第3回	1日目～5日目 「参加」子どもの観察や関わりを通して、乳幼児の発達を理解する
第4回	1日目～5日目 「参加」保育計画、指導案を理解し責任実習に向けて準備する
第5回	1日目～5日目 「参加」生活や遊び等の一部を担当し、保育技術を習得する①
第6回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」生活や遊び等の一部を担当し、保育技術を習得する②
第7回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」職員間の役割分担とチームワークについて理解する
第8回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」安全な環境や衛生管理、疾病予防の配慮について理解する
第9回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
第10回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」保育士としての職業倫理を具体的に学ぶ
第11回	6日目～11日目 「参加実習、責任実習」実践を通して記録や考察を深める
第12回	11日間の実習終了後、実習報告会を実施

授業時間外の学習

実習前には「実習のオリエンテーション」に出席する
実習日誌の準備をする
部分実習や責任実習に向けて、子どもの発達や子どもの遊びを復習するとともに、手遊び、絵本の読み聞かせ等の準備を重ねる。
部分実習や責任実習に向けて、指導案を作成する。導入についても考え準備を行う
生活の歌、季節の歌、ピアノの練習を行う

成績評価

規定された実習時間を全て終了することにより、実習園の責任者（園長）より実習の評価がされる
実習園の評価と当校の実習担当教員の評価も併せて総合的に評価される
※備考
実習を履修するにあたり「実習に行くための基準」を満たしていること
実習中に教員が実習指導巡回するので、その指導に従うこと
実習報告会に参加しなければならない

使用テキスト

「保育・教育実習」ミネルヴァ書房：発行 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著
「学びつづける保育者をめざす 実習の本」株式会社 萌文書林：発行 久富陽子：編著
「保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社：発行 西岡郁子：編集

担当教員の実務経験

科目名	保育実習指導Ⅱ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代、伊藤 萌	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
保育実習Ⅱに向けて、実践的な授業を通して保育現場を想定しながら学習する。子どもたちの年齢別の発達に応じた遊びを考え、指導案を作成する。実際の保育現場において、保育の実践ができるように模擬体験する。 保育実習Ⅱの目標を明確に定め、保育学生として望ましい姿勢を身につけて実習に臨めるようにする。					
到達目標					
①保育実習Ⅱに向けて、必要な知識を身につける。 ②子どもの年齢別の成長発達について理解を深める。 ③子どもとの遊び方、遊びの技術を身につける。 ④指導案の作成方法を学び、実際に作成する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	授業ガイダンス / 実習の自己評価と今後の課題、目標				
第2回	保育実習Ⅰを振り返る				
第3回	保育実習Ⅰを振り返る				
第4回	3、4、5歳児の子どもの遊びを学ぶ① 指導案作成準備				
第5回	3、4、5歳児の子どもの遊びを学ぶ② 指導案作成準備				
第6回	指導案作成①				
第7回	0、1、2歳児の子どもの遊びを学ぶ① 指導案作成準備				
第8回	0、1、2歳児の子どもの遊びを学ぶ② 指導案作成準備				
第9回	指導案作成②				
第10回	指導案に基づいた実践演習① 実践の評価を反省				
第11回	指導案に基づいた実践演習② 実践の評価を反省				
第12回	保育技術①				
第13回	保育技術②				
第14回	実践演習				
第15回	科目まとめ 振り返り				
授業時間外の学習					
事前学習：教科書、配布資料等により講義内容を理解する。 事後学習：各回の授業内容を振り返り、内容を理解する。					
成績評価					
科目試験にて評価をする。 科目試験 90% 小テスト 10%					
使用テキスト					
「保育・教育実習」ミネルヴァ書房：発行 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著 「学びつづける保育者をめざす 実習の本」株式会社 萌文書林：発行 久富陽子：編著 「保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社：発行 西岡郁子：編集					
担当教員の実務経験					
保育経験：社会福祉法人、株式会社保育園において保育者、園長歴 教育歴2年					

科目名	こどもの理解と相談支援	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	弓田 千春	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
現在、学校現場では、進路相談や人間関係の相談から障害や精神疾患の対応など、非常に幅広く、様々な問題に直面する。そうした中で行われる教育相談とは、児童・生徒個人へのアプローチだけでなく、彼らの周囲（保護者、教員、カウンセラー、クラスや友人関係などの集団、物理的環境、地域資源など）へもアプローチし、環境調整を行うことも重要であると考え。これらを前提に、教員としての具体的な支援者像をイメージしながら、心理学や精神医学をはじめとした様々な知見から問題に対する理解を深め、支援に対する多角的な視点を養うことを目指す。					
到達目標					
この科目を受講する学生は、自身が教育を行う立場になることを自覚し、教育現場で行われる「相談」の意義を理解し、実際に「教育相談」を行うための意識、態度、知識を得ることが目的である。 このため、以下の三点を特に重視する。 1）心理学の諸理論についての知識を獲得し、問題の見立てや対応に活用できる。 2）児童・生徒、保護者、校内外の関係機関など、多様な対象への適切なカウンセリングスキルの獲得。 3）自分自身の認知の仕方や行動傾向などを分析し、自己理解を深める。 以上を到達目標とする。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	ガイダンス				
第2回	心理学の諸理論とカウンセリングⅠ～防衛機制、転移、逆転移、無意識について				
第3回	心理学の諸理論とカウンセリングⅡ～カウンセリングマインドとその他の理論について				
第4回	コミュニケーション論Ⅰ～子どもたちを観察することでわかること				
第5回	コミュニケーション論Ⅱ～声掛けや応答のテクニック				
第6回	校内外との連携～学校内、家庭、外部専門機関との連携と役割について				
第7回	発達課題と発達上起こりうる問題たち				
第8回	学校における諸問題①発達障害について				
第9回	学校における諸問題②不登校、引きこもりについて				
第10回	学校における諸問題③うつ、心身症について				
第11回	学校における諸問題④摂食障害、パニック障害について				
第12回	学校における諸問題⑤いじめについて				
第13回	学校における諸問題⑥虐待、自傷行為、自殺などへの危機介入について				
第14回	保護者の理解と対応、教員のメンタルヘルスについて				
第15回	科目まとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
授業時間外の学習：事前準備としては、配布資料や教科書をよく読んでおくこと。授業後は作成したノートをよく読み、授業内容を振り返りながらまとめ、自分の理解度を確認しておくこと。					
成績評価					
定期試験得点（9割）＋小テスト（1割）にて成績評価とする。					
使用テキスト					
学校指定の教科書を使用する。 参考書籍等は授業内で紹介する。					
担当教員の実務経験					
高等学校、大学、民間センターにおいて臨床心理士としての実務経験を有する。					

科目名	教育方法論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	林 若子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位
授業概要					
教育の「方法」とは、マニュアルではなく目標を達成するための道筋である。その道筋も、また目標そのものも、教育の対象に関する適切な理解の上に考案されなければならない。 この授業では、近代以降の幼児教育の代表的な方法を見ていくとともに、現代の乳幼児の実践報告を読み解いていく。					
到達目標					
1, 幼児教育の代表的な方法論を理解する。 2, 乳幼児の発達過程に即した教育方法を理解する。 3, 幼児教育と小学校との連携の方法を理解する。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	科目ガイダンス				
第2回	0歳児クラスの生活とあそび				
第3回	1歳児クラスの生活とあそび				
第4回	2歳児クラスの生活とあそび				
第5回	3歳児クラスの生活とあそび				
第6回	4歳児クラスの生活とあそび				
第7回	就学前教育の方法				
第8回	近代以降の幼児教育の方法①				
第9回	近代以降の幼児教育の方法②				
第10回	近代以降の幼児教育の方法③				
第11回	行事の計画と展開				
第12回	命をまもる教育の方法				
第13回	幼児教育と小学校の連携				
第14回	科目のまとめ①				
第15回	科目のまとめ②				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
よみかさせの練習等与えられた課題を遂行する。					
成績評価					
筆記試験90% 小テスト10%					
使用テキスト					
『教育方法論』豊岡短期大学					
担当教員の実務経験					

科目名	教育実習	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	倉島 多摩代、米田 朝香、間 正子、水野 沙織、水原 佐和子、伊藤 萌	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	外部実習	単位	4単位
授業概要					
幼稚園における実習（合計20日間／160時間以上） 幼稚園での教育と保育を実践し、幼稚園教諭に必要な資質や能力、技術を習得する。また、家庭や地域との連携も学び、子ども家庭福祉に対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。					
到達目標					
①幼稚園・幼稚園教諭に求められること、その役割についての知識を得る。 ②多様な子どもへの対応の在り方について学ぶ。 ③幼稚園の教育全般に参加し、実践に即した幼稚園教諭としての技術を習得する。 ④子どもの最善の利益への配慮、幼稚園教諭としての職業倫理について理解を深める。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	1日目～5日目 「観察、参加実習」実習幼稚園について理解する				
第2回	1日目～5日目 「観察、参加実習」幼稚園の一日の流れを理解し、積極的に参加する				
第3回	1日目～5日目 「観察、参加実習」子どもの観察や関わりを通して、幼児の発達を理解する				
第4回	1日目～5日目 「観察、参加実習」幼稚園の役割と機能について理解する				
第5回	1日目～5日目 「観察、参加実習」子どもの年齢による発達過程を理解する				
第6回	6日目～10日目 「参加実習、部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第7回	6日目～10日目 「参加実習、部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第8回	6日目～10日目 「参加実習、部分実習」子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ				
第9回	6日目～10日目 「参加実習、部分実習」保育計画、指導案を理解し責任実習に向けて準備する				
第10回	6日目～10日目 「参加実習、部分実習」保育計画、指導案を理解し責任実習に向けて準備する				
第11回	11日目～15日目 「部分実習」保育計画、指導案を理解し責任実習に向けて準備する				
第12回	11日目～15日目 「部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第13回	11日目～15日目 「部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第14回	11日目～15日目 「部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第15回	11日目～15日目 「部分実習」生活や遊びの一部を担当し、保育技術を習得する				
第16回	16日目～20日目 「部分実習・責任実習」職員間の役割分担とチームワークについて理解する				
第17回	16日目～20日目 「部分実習・責任実習」安全な環境や衛生管理、疾病予防等の配慮について理解する				
第18回	16日目～20日目 「部分実習・責任実習」子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ				
第19回	16日目～20日目 「部分実習・責任実習」幼稚園教諭としての職業倫理を具体的に学ぶ				
第20回	16日目～20日目 「部分実習・責任実習」実践を通して記録や考察を深める				
授業時間外の学習					
実習前には「実習のオリエンテーション」に出席する 実習日誌の準備をする 部分実習や責任実習に向けて、子どもの発達や子どもの遊びを復習するとともに、手遊び、絵本の読み聞かせ等の準備を重ねる。 部分実習や責任実習に向けて、指導案を作成する。導入についても考え準備を行う 生活の歌、季節の歌、ピアノの練習を行う					
成績評価					
規定された実習時間を終了することにより、実習園の責任者（園長）より実習の評価がされる。 実習園の評価と、教育連携校である豊岡短期大学の評価も併せて総合的に評価される。 ※備考 実習を履修するにあたり、実習に必要な単位を取得していること 実習中に教員が実習指導巡回するので、その指導に従うこと 事前指導・事後指導、実習報告会に参加しなければならない					
使用テキスト					
「保育・教育実習」ミネルヴァ書房：発行 大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著 「学びつづける保育者をめざす 実習の本」株式会社 萌文書林：発行 久富陽子：編著 「幼稚園教育要領」チャイルド本社：発行 西岡郁子：編集					
担当教員の実務経験					
私立幼稚園にて幼稚園教諭としての実務経験を有す。					

科目名	教育実習事前事後指導	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	中村 リヨ	配当年次	1学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	1単位
授業概要					
・幼稚園実習の意義や必要性を理解し、実習が十分な成果を納められるよう具体的な内容（記録の仕方、指導案の作成、模擬保育など）を準備する。 ・幼稚園実習終了後に、実習で体験し学んだことを整理して確認し、今後の学習につなげる。					
到達目標					
・幼稚園教育の実際の場合に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 ・実習のために必要な知識・技術を学び、それを生かして実習できるよう準備する。 ・実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	イントラダクション				
第2回	実習の目的と概要 幼稚園と幼稚園教諭の職務				
第3回	幼稚園実習の心構え 幼稚園実習の内容と準備の歩み				
第4回	幼稚園の実際・幼稚園の1日				
第5回	記録簿の書き方				
第6回	教材研究				
第7回	参観実習の計画と内容				
第8回	部分実習指導案作成①				
第9回	部分実習指導案作成②				
第10回	部分実習の演習①				
第11回	部分実習の演習②				
第12回	実習中の諸注意				
第13回	事前訪問の仕方と注意				
第14回	実習簿その他実習関係書類作成				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
事前学習・テキストにより講義内容の把握 ・演習及び実習への準備 事後学習・実習の振り返り”					
成績評価					
科目試験：90%、小テスト：10%					
使用テキスト					
指定テキスト（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）					
担当教員の実務経験					
公立幼稚園において幼稚園教諭・園長の実務経験を有する。認定こども園において園長の実務経験を有する。					

科目名	ピアノ演習Ⅱ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	北川 聖子、小林 美智子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
この授業では、保育士や幼稚園教諭に必要な「弾き歌い」のためのピアノに関する知識や技術を習得するために、現場で使用される楽曲（「季節のうた」・「行事のうた」・「生活のうた」）を取り上げながら展開していく。また、幼稚園実習などに向けて、実習園からの課題曲にも取り組む。					
到達目標					
右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音の伴奏を付けることができるようになる。さらに、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、生き活きと楽しく「弾き歌い」ができるようになることを目標としている。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション、1年次の復習（練習）				
第2回	実習に向けての準備① 6月の「季節のうた」と「行事のうた」				
第3回	実習に向けての準備② 6月の「季節のうた」と「生活のうた」				
第4回	実習園からの課題曲①				
第5回	実習園からの課題曲②				
第6回	実習園からの課題曲③				
第7回	小テスト（第2回～第6回までの中で学習した曲から実施）				
第8回	《おばけなんてないさ》				
第9回	《せんせいとおともだち》				
第10回	《やぎさんゆうびん》				
第11回	《きらきら星》				
第12回	《アイスクリームのうた》				
第13回	《南の島のハメハメハ大王》				
第14回	成果発表会				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。 ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、復習すること。 ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。					
成績評価					
・期末テスト：90%、小テスト10%によって成績評価する。					
使用テキスト					
・楽譜のスケッチブック（1年次の配布プリント集） ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和5年） ・配布プリント					
担当教員の実務経験					

2024年度

科目名	ピアノ演習Ⅲ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	北川 聖子、小林 美智子	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位
授業概要					
この授業では、前期の「ピアノ演習Ⅱ」の授業を踏まえ、引き続き保育士や幼稚園教諭に必要な「弾き歌い」のためのピアノに関する知識や技術を習得するために、現場で使用される楽曲（「季節のうた」・「行事のうた」・「生活のうた」）を取り上げながら展開していく。また、保育実習に向けて、適切な楽曲に取り組む。					
到達目標					
右手で楽曲の旋律を、左手で適切な和音の伴奏を付けることができるようになる。さらに、それぞれの楽曲の曲想を感じ取り、生き活きと楽しく「弾き歌い」ができるようになることを目標としている。					
授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）					
回数	授業計画・内容				
第1回	オリエンテーション				
第2回	実習に向けての準備① 10月の「季節のうた」と「行事のうた」				
第3回	実習に向けての準備② 10月の「季節のうた」と「生活のうた」				
第4回	《まつぼっくり》				
第5回	《やきいもグーチャーパー》				
第6回	《山の音楽家》				
第7回	《あわてんぼうのサンタクロース》				
第8回	《きよしこの夜》				
第9回	小テスト（第2回～第8回までの中で学習した曲から実施）				
第10回	《北風小僧の寒太郎》				
第11回	《豆まき》				
第12回	《うれしいひな祭り》				
第13回	《思い出のアルバム》				
第14回	成果発表会				
第15回	科目のまとめ				
第16回					
第17回					
第18回					
第19回					
第20回					
授業時間外の学習					
・事前学習：授業で取り扱う曲を事前に読譜し、練習すること。 ・事後学習：授業の中で指摘された箇所を中心に、復習すること。 ※毎日30分～1時間程度の練習をすること。					
成績評価					
・期末テスト：90%、小テスト10%によって成績評価する。					
使用テキスト					
・楽譜のスケッチブック（1年次の配布プリント集） ・豊岡短期大学『こどもの指導法「音楽表現」』（令和5年） ・配布プリント					
担当教員の実務経験					

科目名	レクリエーション理論と実技Ⅰ	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	道廣 英彦	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	演習	単位	2単位

授業概要

この講義では、子どもにとって「遊び」がたいへん重要な意味を持っていることを基本に置いて、どうすれば子どもが自由で主体的な遊びを遊ぶことができるのか、そのために大人たちは何をすべきか、また、してはならないかを考えていきます。そのために①遊びが人間の生活と文化を生み出す土台であること、②子どもには「遊ぶ権利」があるのに、今日の社会ではそれが十分に実現できていないこと、③子どもの遊びを支援する「プレイワーク」が必要であることを理解するとともに、④さまざまな遊びの素材を実体験し、子どもたちとともに遊びを楽しむ方法について学習していただきます。授業修了者にはNPO法人日本余暇会から修了証を付与します。

到達目標

学習を通じて、遊びの理論を理解し、また、遊びの支援に関するスキルをみがくことを目指します。具体的な到達目標は以下の通り。①遊びの意味と価値を理論的に説明できる。②「子どもの遊ぶ権利」とは何かを知り、それを実現する社会運動を理解する。③遊びの支援について3種類の実践方法があることを知る。④遊びのプログラムを組み立て、それを実施する方法を学び、リスクへの対処法を知る。そして⑤多種多様な遊びを実際に体験し、それを子どもたちと共に楽しむための支援のスキルを身に着けること。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	オリエンテーション／子どもの遊ぶ力を支援するプレイワーク
第2回	子どもの発達段階における遊びの分類～カイヨワの4つの遊び
第3回	よい遊びと悪い遊び～遊びに良し悪しはあるのか
第4回	自然系の遊び～自然に触れる、自然を感じる、自然体験の意義について
第5回	文化系の遊び①～歌って遊ぶ
第6回	子どもの遊びと社会の動き～遊びをテーマとした社会運動の歴史
第7回	文化系の遊び②～踊って遊ぶ
第8回	子どもの遊びをどう支援するか～遊びの3つの支援方法
第9回	集団とグループワーク～小集団とグループワークの基礎
第10回	運動系の遊び①～競争する遊び
第11回	イベント企画法～危険予知トレーニング（KYT）の実際、リスクマネジメントの考え方
第12回	運動系の遊び②～競争しない遊び／協働する遊び
第13回	文化系の遊び③～模擬の遊び
第14回	「子どもの遊ぶ権利を守る」活動
第15回	科目のまとめ
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

子どもの遊びに関わる地域団体や公益法人等の協力を得て、冒険遊び場の活動やさまざまな遊びのイベントに体験したり、その運営に参加する機会を提供します。教室の学びを地域の現場で確認し、発展させることができます。

成績評価

科目試験100%、小テスト10%
講義のほか、学習内容を深めるために、実技・演習を行う。
積極的に授業に参加することを期待する。

使用テキスト

藺田碩哉編著『プレイワーク入門』 アネスト出版 2022年

担当教員の実務経験

科目名	児童ソーシャルワーク論	対象学科	こども保育学科Aコース		
担当教員	石川 琢馬	配当年次	2学年	開講時期	
		授業形態	講義	単位	2単位

授業概要

ソーシャルワークにおいては、特にものごとを「ありのまま」に見る力が不可欠であり、その上で「自分の頭で考える」力が求められる。この授業では、その二つの項目を念頭に、ソーシャルワークの基本的な知識・技術・倫理について講義し、同時にロールプレイ・グループワークを行なっていく。また、福祉現場の声を直接聴く機会も工夫したい。

到達目標

1. 「いま、ここで」何が起きているか、そのありのままを見通せる力を養う。
「気づく」力を少しでも伸ばすこと。
2. ソーシャルワーク・プロセスを理解し、何を優先すべきかの判断力・選択力を身につける。

授業計画（授業は『授業計画・内容』記載分まで実施します。）

回数	授業計画・内容
第1回	「ありのまま」とはどのようなことか。「考える」ことの原則について。ソーシャルワークとカウンセリング・マインドについて
第2回	ソーシャルワークの実際 ソーシャルワークの考え方、事例を通して全体像をイメージする
第3回	ソーシャルワーク・プロセスについて 対人支援ではそのプロセスが大事であることの意味、問題発見と問題解決、アセスメントについて
第4回	相談支援について① カウンセリングマインドについて、「信頼関係」はどのようにつくられるか。
第5回	相談支援について② 問題解決型支援と伴走型支援について「ソーシャルワーク」「カウンセリング」それぞれの考え方について
第6回	相談支援について③ この授業で扱うロールプレイについて、ソーシャルワークを進めるための基本となることについて
第7回	相談支援について④ ロールプレイの実施。
第8回	相談支援について⑤ ロールプレイの実施。
第9回	相談支援について⑥ ロールプレイの実施。
第10回	事例研究① 事例研究がなぜ大切か、保育所の事例をもとにグループワーク
第11回	事例研究② 児童虐待を課題とした事例をもとにグループワーク
第12回	事例研究③ 児童に関わる複合的問題をかかえる事例についてグループワーク
第13回	専門的援助、ソーシャルワークにおける支援者の福祉倫理について 専門的援助とはどういうことか。保育者の倫理観を考える
第14回	児童ソーシャルワークがめざすこと 保育者の課題、めざす方向について
第15回	まとめの講義と定期試験
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	

授業時間外の学習

講師が選定した書籍（絵本や詩などを含む）の中から一冊以上を任意に選び、その本の内容から各自テーマを設定してレポートする。

成績評価

定期試験（90％）、小テスト（10％）の結果により評価する。

使用テキスト

講師作成の「対話セッション」のプリントを使用します。

担当教員の実務経験

児童養護施設および児童相談所等において、相談支援業務の実務経験を有する。